

中学校学習指導要領解説Q&A 外国語科



教
一
如
女
学

教えることは学ぶことである

学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説Q & Aについて

平成29年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

2 Q & A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと蒸してゆでるもの、ゆでることによってかさが減るものは、多くの量を食べることで調理の特性を理解できるようにするためです。

「教科等の目標や内容」、「主体的・対話的で深い学びの授業改善」等について、Q & A形式で分かりやすく解説しています。

ここには、「答え(Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載されているので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

家庭科 (9学級)

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料として「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと蒸してゆでるもの、ゆでることによってかさが減るものは、多くの量を食べることで調理の特性を理解できるようにするためです。

【解説】
「じゃがいも」は、ゆでると食感が柔らかくなり、水からゆでると、ゆで汁がとろみがついて、汁物やスープなどに使えます。また、ゆでるとかさが減るため、多くの量を食えるようになります。これは、調理の特性の一つです。

【補足説明】
「じゃがいも」は、ゆでると食感が柔らかくなり、水からゆでると、ゆで汁がとろみがついて、汁物やスープなどに使えます。また、ゆでるとかさが減るため、多くの量を食えるようになります。これは、調理の特性の一つです。

3 活用法

日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等では是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目 次

No.	質 問	ページ
1	小学校外国語教育と中学校外国語科の目標の相違点，共通点は何ですか。	1
2	外国語科の目標はどのように設定されていますか。	3
3	小学校外国語教育と中学校外国語科における英語の目標の相違点は何ですか。	5
4	英語の目標はどのように設定されていますか。	9
5	外国語教育における主体的・対話的で深い学びの実現はどのように図ればよいですか。	15
6	「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるとはどのように捉えたらよいですか。	17
7	「知識及び技能」を身に付けさせる際に留意することは何ですか。	19
8	「思考力，判断力，表現力等」を育成する上で留意することは何ですか。	23
9	言語活動を設定する際に留意することは何ですか。	25
10	「聞くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	27
11	「読むこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	29
12	「話すこと〔やり取り〕」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	31
13	「話すこと〔発表〕」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	33
14	「書くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	35
15	言語の使用場面や言語の働きに関して留意することは何ですか。	39
16	指導計画を作成する時に留意することは何ですか。	43
17	内容の取扱いについて配慮することは何ですか。	49
18	教材選定についてはどのようなことに配慮すればよいですか。	52
19	道徳教育との関連はどのように図ればよいですか。	53
20	移行期間にはどのような指導を行えばよいですか。	55

中学校外国語科改訂のポイント







新学習指導要領の下での中学校外国語科を理解するために、小学校外国語教育との関連や目標の要点、授業づくりの考え方などの視点で、以下の六つの **Point** をまとめました。

外国語科

Point 何が違う？ 小学校との関連

小学校		中学校 外国語科
外国語活動	外国語科	
コミュニケーション能力の素地の育成	コミュニケーション能力の基礎の育成	コミュニケーション能力の育成
3領域 聞く、話す【やり取り・発表】	5領域 聞く、話す【やり取り・発表】、読む、書く	5領域 聞く、話す【やり取り・発表】、読む、書く
外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ	基本的技能の習得・読み書きへの慣れ親しみ	知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能の習得
4年間で600～700語（中学校でも扱う。）		3年間で1600～1800語
考えや気持ちを音声で伝え合う言語活動	聞いたり話したりすることに加え、読んだり書き写したりすることを通して伝え合う言語活動	外国語で簡単な情報や考えを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする言語活動
主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度		

Point 目標の要点は？ 英語の目標 - 特に留意する項目 -

	話題	目標
聞くこと・読むこと	日常的な話題	必要な情報を捉える。 物語などの概要を捉える。
	社会的な話題	説明文などの要点を捉える。  まとまりのある英語を最初から最後まで聞いたり読んだりして、話のあらましや、話し手、書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えるんだね。
話すこと「やり取り・発表」、書くこと	関心のある事柄	即興で伝え合う／話す。 正確に書く。  話すことでは、多少の誤りや、たどたどしさを認めます。
	日常的な話題	事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容（文章）を伝える・問答する／話す／書く。  一貫性のある文章で話したり書いたりする力や、質問に対して対話を続ける力を付けていくんだね。
	社会的な話題	聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを述べ合う／話す／書く。  技能統合的な活動を通して話したり書いたりする力を高めます。他教科等で扱っている話題やテーマも積極的に取り入れます。

追加された文法事項

感嘆文のうち基本的なもの	S V + 形容詞 + that節
S V O + that節 / 間接疑問	現在完了進行形
S V O + 原形不定詞	仮定法のうち基本的なもの

効果的な指導のために求められること

深い生徒理解
発達の段階に即した指導技術
学校内外の人的・物的資源を効果的に活用する力

深い教材研究
生徒の興味・関心を喚起する課題や指導計画を設定する力

外国語の習得過程についての知識
外国語の習得過程についての知識
小中連携、中高連携

外国語によるコミュニケーションにおける見方・むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して **り伝え合ったりするコミュニケーションを図る資**

Key Word

「活用」

個別の知識・技能が他の知識・技能と関連付けられ、社会における様々な場面で、状況や課題に応じて活用できるようにします。

学びに向かう

外国語の背景にある文・聞き手、読み手、話し手主体的に外国語を用いてろうとする態度を養う。

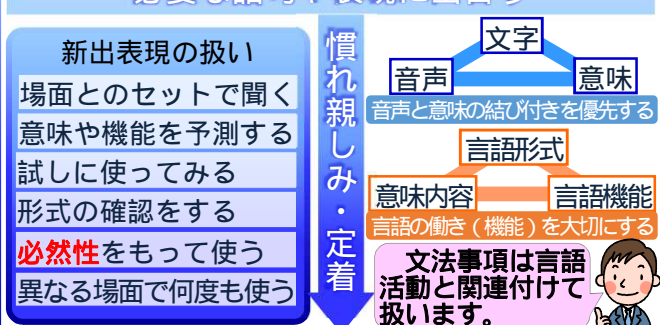
知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて **活用** できる技能を身に付けるようにする。

上記三つの柱には、「知識及び技能」を **実際** 考えを形成・深化させ、話したり書いたりしてが生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層するため、**主体的・対話的で深い学び** を通した不

Point 繰り返して活用することによる 授業の流れは？ 知識及び技能の定着の過程

必要な語句や表現に出合う



実際のコミュニケーションで自在に活用する

Key Word

「言語活動」

教師と生徒、生徒同士が実際に英語を使用して自分の考えや気持ちを伝え合う活動を指します。目的や場面、状況を明確にして行います。

Key Word

「場面設定」

どの領域においても活動の際は、何のために誰に対してそれを行うのかを生徒が意識できるように具体的な場面設定を必ず行います。

外国語によるコミュニケーション における見方・考え方

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。」

の目標

・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読、簡単な情報や考えなどを理解したり表現した質・能力を次のとおり育成することを目指す。

力、人間性等

化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図

Key Word

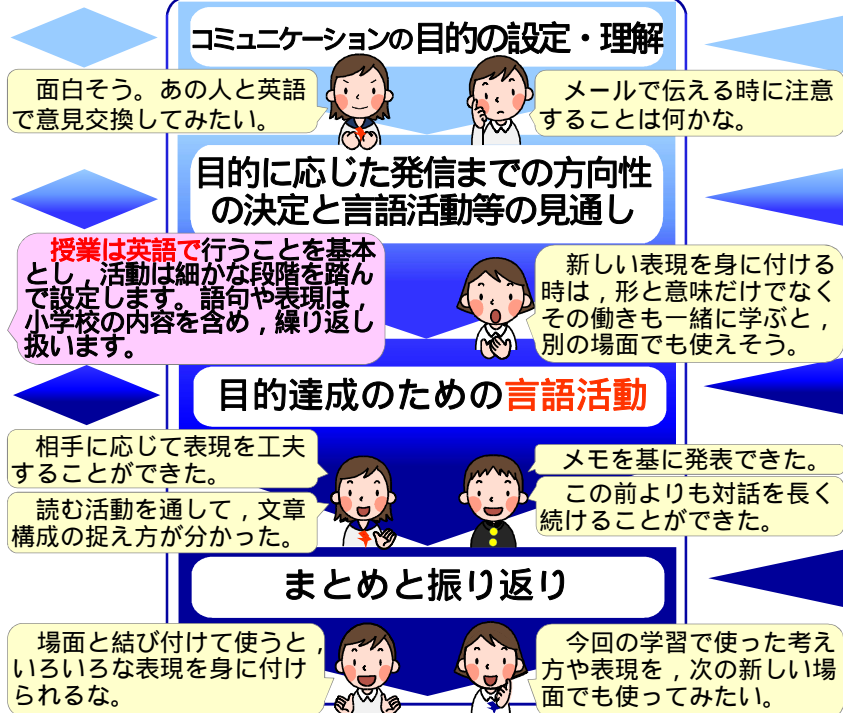
「目的や場面、状況など」
精査した情報を基に考えを形成し、表現したり、伝え合ったり、理解したりする力を育む上でのポイントになります。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

のコミュニケーションの場面において活用し、表現することを繰り返すことで、生徒に自信高まるという関係があります。その実現を図断の授業改善が求められます。

Point 資質・能力の育成につながる 単元の指導は？ 外国語教育の学習過程



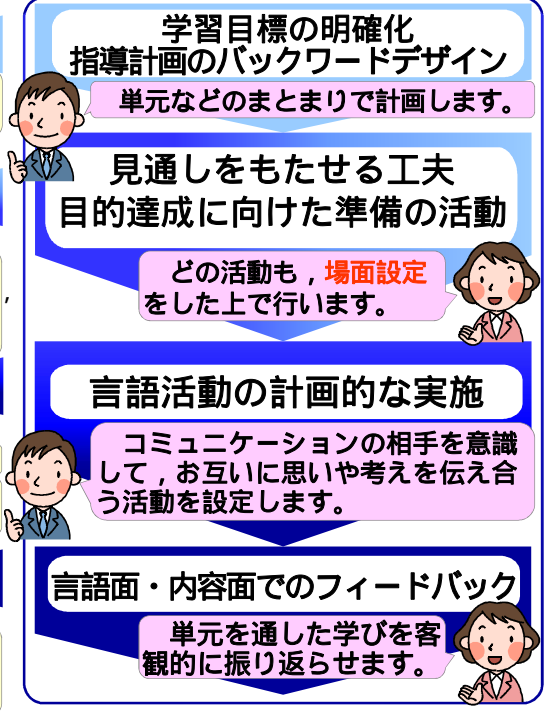
Point 授業改善の視点とは？

主体的・対話的で深い学び

実際に英語を使用して互いの考えを伝え合う言語活動を通して、外国語教育の目指す資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）をバランスよく一体的に育成することが大切です。

主体的な学び	外国語の学習や外国語によるコミュニケーションに興味や関心をもつ。 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとする。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組む。 自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげる。
対話的な学び	○ 他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりする。
深い学び	目的や場面、状況等に応じて思考力、判断力、表現力等を発揮する中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識が更に深まり、それらの知識を実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなる。 深い理解と確実な技能に支えられて、「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用される。

Point 主体的・対話的で深い学びを実現する 教師の役割は？ 教師の働き掛けの視点



小学校及び高等学校外国語教育の目標、内容についての理解
外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢
指導力及び英語力向上のための継続的な研修

特別支援教育の理解
専門的な英語の知識

外国語活動・外国語科

Q 1 小学校外国語教育と中学校外国語科の目標の相違点，共通点は何ですか。

A 1

- 1 外国語活動は，改訂前の外国語活動とほぼ同じであるのに対して，小学校外国語科は，外国語活動の成果を踏まえた全く新しい教科です。中学校外国語科の改訂では，この点を踏まえ，小中一貫した目標が設定されています。
- 2 外国語活動は，「聞くこと」，「話すこと〔やり取り〕」，「話すこと〔発表〕」の3領域における言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を，小学校外国語科は，「読むこと」，及び「書くこと」を加えた5領域における言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を養うことをねらいとしています。そして，中学校外国語科は，5領域における言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養うことをねらいとしています。
- 3 「知識及び技能」については，外国語活動は慣れ親しむこと，小・中学校外国語科は技能を身に付けることを目標としています。
- 4 「思考力，判断力，表現力等」は，いずれも自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して育成します。外国語活動が音声のみを扱うのに対して，小学校外国語科は「読むこと」や「書くこと」を含んだ言語活動となる点が異なります。
- 5 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成する言語活動を通して，小学校外国語科においては，特に音声で慣れ親しむ中で定着を図りますが，全てを定着させることが求められていないことに留意します。
中学校外国語科では，5領域の総合的な育成が図られるようにします。
- 6 弾力的な指導ができるよう，外国語活動，小学校外国語科は2学年間，中学校外国語科は3学年間を通した目標としています。

柱書き

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく，子供の学びの過程全体を通じて，知識及び技能が，実際のコミュニケーションにおいて活用され，思考，判断，表現することを通じて獲得され，学習内容の理解が深まるなど，資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要があります。

(1) 「知識及び技能」

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

外国語活動は外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことを目標としています。一方、小学校外国語科は、基本的な技能を身に付けることを目標としますが、読んだり書いたりすることについての全体的な目標は、「慣れ親しむ」レベルにとどまります。中学校外国語科では、言語材料等についての知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせるようにします。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

小学校外国語教育は、児童が興味・関心を高めるような身近な話題を扱います。中学校外国語科では、日常的な話題や社会的な話題へと対象が広がります。「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、外国語活動では、自分の考えや気持ちなどを音声で伝え合う言語活動を、小学校外国語科では、音声に加え、読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を行います。中学校外国語科では、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする言語活動を行います。どの段階においても、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して知識を活用できるようにすることが大切です。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動では、母語と外国語、日本の文化と外国の文化の相違点や共通点を知り、言語やその背景にある文化の多様性を認め、尊重することを目標としています。小学校及び中学校外国語科では、学習の対象となる外国語の言語材料の背景にある文化を通してその多様性を理解し、尊重することが目標です。配慮する対象としては外国語活動では「相手」、小学校外国語科では「他者」、中学校外国語科では、「聞き手、読み手、話し手、書き手」としています。

文末の「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」は、全てで共通しています。このことは、学習者が、間違いを恐れず、自身がもっている知識や技能を総動員してコミュニケーションを図ろうとすることが大切であることを表しています。

外国語科

Q 2 外国語科の目標はどのように設定されていますか。

A 2

- 1 中学校外国語科の目標は、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することです。
- 2 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から設定されています。
- 3 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」それぞれに関わる外国語特有の資質・能力を育成する必要があるため、その際、外国語教育の特質に応じて、生徒が物事を捉え、思考する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるようにします。
- 4 今回の改訂では「理解する」、「表現する」という単に受け手となったり送り手となったりする単方向のコミュニケーションだけでなく、「伝え合う」という双方向のコミュニケーションも重視されています。
- 5 「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、言語材料を活用し、言語の使用場面に応じて具体的な言語の働きを取り上げ、言語活動を行う必要があります。
- 6 小学校に新たに外国語科が導入されたことを踏まえ、小学校における学習との接続に一層留意する必要があります。

外国語科の目標

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

五つの領域における「自分の考えや気持ちを伝え合う」活動。

(1) 「知識及び技能」

基礎的・基本的な知識を確実に習得しながら、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念としていくこと。

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

「知識」

「技能」

一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、獲得した個別の技能が自分の経験やほかの技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくこと。

小学校の外国語科の「読むこと」、「書くこと」については、「読むこと、書くことに慣れ親しみ」としており、「聞くこと」、「話すこと」と同等の指導を求めるものではないことに留意する必要がある。中学校卒業時には、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」の技能を総合的に育成しておかなければなりません。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

コミュニケーションを行うことによって達成しようとする目的や、話し手や聞き手を含む発話の場面、コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境のこと。

生徒の日々の生活に関わる話題。

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、何を聞き取るべきなのか、読み取らなければならない内容は何なのか、を判断し、「聞くこと」や「読むこと」を通して情報や考えなどを理解すること。

理解した情報や考えなどを整理した上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、何をどのように取り上げるかを既存の知識や体験などとも関連付けながら判断し、「話すこと」や「書くこと」を通して表現したり伝え合ったりすること。

「思考力、判断力、表現力等」は、「目的や場面、状況など」に応じた言語の運用を考えることで育成されます。「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、言語材料を活用し、言語の使用場面に応じて具体的な言語の働きを取り上げ、言語活動を行う必要があります。

(例) ある情報を得るために読む際に、単に一つの情報をうのみにするのではなく、他の情報と比べるなどして精査する。

意見を述べる際に、考えを整理したり話す内容の構成を考えたり、相手に応じた表現を選択したりする。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返しながらいったりすること。

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

単に積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず、学校教育外においても、生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度。

「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」は不可分に結び付いています。生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることが大切です。

外国語活動・外国語科

Q 3 小学校外国語教育と中学校外国語科における英語の目標の相違点は何ですか。

A 3

- 1 外国語活動では、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」の三つの領域別の、小学校及び中学校外国語科では、「読むこと」と「話すこと [発表]」、「書くこと」を加えた五つの領域別の目標を設定しています。
- 2 外国語活動では、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした言語活動を通して外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めること、小学校外国語科では、「読むこと」、「書くこと」を加え、技能を身に付けること、五つの領域別の目標を総合的に達成することを目標としています。
- 3 外国語活動の文末が「～するようにする。」となっているのは、目標が慣れ親しむことであるためです。一方、小学校及び中学校外国語科の「～できるようにする。」とは、技能を身に付けることが目標になるということを示しています。

(1) 聞くこと

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。	ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。	イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。	ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

小学校

外国語活動では、「簡単な語句」や「基本的な表現」、「文字」の聞き取りを対象としています。

外国語科では、「簡単な語句や基本的な表現」に加え、「具体的な情報」を聞き取り、「短い話の概要」を捉えることができるようにします。

外国語活動と外国語科の目標において「ゆっくりはっきり」という条件を示しているのは、教室では児童の実態に応じて速さや明瞭さが調整された英語を使う必要があることを表しています。

中学校

「日常的な話題」について「必要な情報」を聞き取ったり、「話の概要」を捉えたり、「社会的な話題」について「短い説明の要点」を捉えたりすることができるようにします。

「ゆっくり」となっていないのは、音のつながりなどが聞き取れるようになるために、過度に遅くなく自然な速度に近い音声を取り取ることを示しています。

(2) 読むこと

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
	<p>ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。</p> <p>イ <u>音声で十分に慣れ親しんだ</u>簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p>

小学校

外国語科では、文字に関して、例えば、Aという文字の場合、[ei]と発音された時にAを指し示すこと、Aを指し示された時に[ei]と発音することが自分の力でできることが求められます。

簡単な語句や基本的な表現については、音声で十分に慣れ親しんだもののみを扱い、初めて見る語句や表現を読むことは求められていないことに留意します。

中学校

中学校外国語科では、「日常的な話題」について、「必要な情報」を読み取ったり、「短い文章の概要」を捉えること、そして、「社会的な話題」について、「短い文章の要点」を捉えることができるようにします。

(3) 話すこと〔やり取り〕

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。</p> <p>ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて<u>その場で</u>質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p>

小学校

外国語活動及び外国語科においては、定型的な表現を用いたやり取りに加えて、自分の考えや気持ちを伝え合うことを目標としている点は共通しています。

挨拶、感謝の表現は外国語活動で扱います。外国語活動では、「動作を交えながら」、「サポートを受けて」のやり取りであることが求められます。

外国語科では、「依頼」をすることが加わります。また、「その場で」自分で考え判断して、伝え合うやり取りも求められます。

中学校

「関心のある事柄」について「即興で伝え合う」こと、「日常的な話題」について、まとめた内容を整理して伝えとともに、伝えた内容に対する質問に应答すること、「社会的な話題」について得た情報や考えなどを考えや感想、理由などを交換することができるようにします。

「その場で」のやり取り（小学校外国語科）と「即興で」のやり取り（中学校外国語科）

「その場で」のやり取りは、「簡単な語句や基本的な表現を用いて」行うものであり、それまでに十分に慣れ親しんだ語句や表現を選んでいくことが基本となります。一方、「即興で」のやり取りは、語彙や文構造についての知識を生かして、その場に応じた文を自分で考えて作り、表現することを示しています。

「その場で」のやり取りのためには、「簡単な語句や基本的な表現」を、言語の働きや機能を理解しながら身に付けている必要があります。「即興で」のやり取りのためには「簡単な語句や文」を、言語の働きや機能、文構造について理解しながら身に付けている必要があります。そのため、児童生徒が同じ表現を繰り返し言ったり聞いたりする練習は欠かせません。ただし、機械的な練習に終始するのではなく、児童生徒が実際に「その場で」、あるいは、「即興で」やり取りをする活動に繰り返し取り組ませる中で、時間を掛けてその力が育まれるようにすることが大切です。

(4) 話すこと〔発表〕

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。
イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	ウ 社会的な話題に関して聞いたことや読んだことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

小学校

外国語活動及び外国語科は、身の回りや自分のことについて、自分の考えや気持ちを話す点は共通しています。

外国語活動では、「人前で実物などを見せながら」話すのに対して、外国語科では、「伝えようとする内容を整理した上で」話すことができるようにします。

中学校

「関心のある事柄」について「即興で話す」こと、「日常的な話題」についてまとまりのある内容を話すこと、「社会的な話題」について得た情報や考えなどを考えや感想、理由などを話すことができるようにします。

(5) 書くこと

外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
	<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら<u>音声で十分に慣れ親しんだ</u>簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、<u>音声で十分に慣れ親しんだ</u>簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</p>

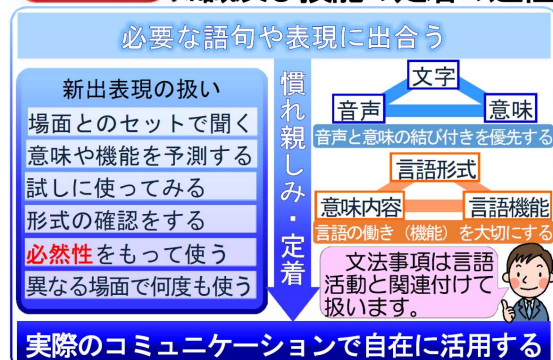
小学校

外国語科の「書くこと」については、大文字、小文字を何も見ないで4線上に書くこと、簡単な語句や基本的な表現を書き写すこと、自分のことや身近で簡単な事柄について例文を参考に書くことができるようにすることを求めています。書き写したり、例文を参考に（例文を見ながら、自分の書きたいことを単語リストなどの中から選んで）書いたりするものは、「音声で十分に慣れ親しんだ」簡単な語句や基本的な表現であることに留意します。

中学校

「関心のある事柄」について「正確に書く」こと、日常的な話題についてまとまりのある内容を書くこと、「社会的な話題」について得た情報や考えなどを考えや感想、理由などを書くことができるようにします。

Point 繰り返して活用することによる
授業の流れは？ **知識及び技能の定着の過程**



外国語科

Q 4 英語の目標はどのように設定されていますか。

A 4

- 1 小・中・高等学校で一貫した、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別の、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成する目標を設定しています。
- 2 各学校において作成される学習到達目標は、五つの領域別の目標を踏まえながら、第2の2に記述された、より具体的な言語材料と言語活動を統合して設定されたものにします。同一の学習到達目標について、複数の単元で異なる言語材料を活用した異なる言語活動を行うことにより、五つの領域別の目標をよりよく達成できるようなカリキュラム・マネジメントや課題設定が望まれます。

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの。(例)学校行事における係分担の説明や持ち物等の連絡、天気予報、交通情報など。

ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。

話されることの全てではなく、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報。(例)店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなど。

外国語活動及び小学校外国語科の目標にある「ゆっくり」という条件がなくなり、音のつながりなどが聞き取れるようになるためにも、過度に遅くなく自然な速度に近い音声を聞き取ることを目指しています。

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの。(例)最も思い出に残っている学校行事や自分の好きなことなど。

イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

一つ的话题に沿って話されるものなど、内容に一貫性のある英語を最初から最後まで聞き、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えること。(例)「お気に入りの日本食」についてALTが授業で話すのを聞き、話全体の大まかな内容を捉える。

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のこと。(例) エネルギー問題や国際協力など。

最初から最後まで聞き、話し手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉える。

ウ 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

ある程度の情報が入ったまとまりのある説明文など。(例) 「地球温暖化の防止」をテーマとした講演など、一つの話題に沿って話される首尾一貫した内容。

(2) 読むこと

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの。(例) 学校での予定、製品の取扱い方など。

ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

小学校での学習やこれまでの経験の中で触れてきた語彙や表現を含め、中学校で扱う語句や文を用いて書かれたもの。(イ及びウについても同様)

「必要な情報」については、「聞くこと」アと同じように、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、目的に応じて、また自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を把握する。

「広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章」といったものを教材に取り上げ、読み手である生徒が主体となり、どんな情報を得るために読むのかを意識するなど、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようにします。

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの。(例) 外国の中学生が紹介する学校生活のことやA L Tが旅行中に体験したことなど。

イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉える。

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のこと。
(例) 自然環境問題や平和問題など。

ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、含まれている複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉える。

一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、文章全体を読み通す点はイと共通しますが、ここでは、文章全体の大まかな内容を把握するのではなく、文章から複数の情報を取り出し、どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断する点が異なることに留意します。

(3) 話すこと[やり取り]

スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事、休日の計画、日常の出来事など、身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること。

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて 即興で伝え合うことができるようにする。

小学校での学習やこれまでの経験の中で触れてきた語彙や表現を含め、中学校で扱う語句や文を用いること。
(イ、ウについても同様)

話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに関心と事実や意見、気持ちなどを伝え合う。

この目標では、小学校の外国語科の「話すこと[やり取り]」の目標ア「基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする」を受け、「関心のある事柄」について即興で情報を交換したり、お互いの考えや気持ちなどを伝え合ったりすることができる力を身に付けさせることを示しています。

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒自身や家族に関する事、生徒の興味・関心の対象となることや社会生活に必要なことなど。

聞き手が理解しやすいように伝える項目を精選したり適切な順序に並べ替えたりするなど、話す内容をまとめ、コミュニケーションの見通しを立てること。

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

この目標は、限られた時間でまとめた内容を整理して伝えることができることと、伝えた内容に対する質問に答えることができること、の二つの要素で構成されています。「質問に答え」とは、単に質問に対する返答で対話を終わらせるということではなく、対話を継続・発展させる力を活用することを含んでいます。

音声によるコミュニケーションにおいては、流れを大切にしながら伝え合うことが重要であり、限られた時間で意見や考えをまとめて伝えたり、質問や意見に対応したりしていくことが、円滑なコミュニケーションになることに留意する必要があります。

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことであり、広く国内外で起こっている事象で、多様な考え方ができるようなもの。
(例) エネルギー問題や環境問題など

話題に関する教師や生徒の発言、映像や音声の教材、ニュースや新聞記事、図表、ポスター、電子メールなど、様々な音声媒体や文字媒体による情報や考えなど。

ウ 社会的な話題に関して 聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて 述べ合うことができるようにする。

共通の話題をきっかけとして、ペアやグループになってお互いに意見を出し合ったり、情報の交換をしたりしながら、話題に関する理解を深め、意見をまとめたり、合意できる部分やできない部分を整理し、その理由を述べ合ったりなどする。

この目標では、聞いたり読んだりしたことを基にやり取りを展開していく力を身に付けさせることを示しており、聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを共通の話題とし、生徒がお互いに質問したり個人又は集団で考えや感想、理由などを交換できるようになることを重視しています。

話す際に必要となる表現や情報などを得るために聞いたり読んだりするという目的を明確にするなど、他の領域の言語活動と有機的に関連させます。

(4) 話すこと〔発表〕

スポーツ，音楽，映画，テレビ番組，学校行事，休日の計画，日常の出来事など，身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること。

ア 関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

事前に原稿を書いてそれを暗唱したりするのではなく，興味・関心のある事柄であれば，既習の知識や技能を生かしてその場で話せるようにします。即興で話す力については，一度の授業や言語活動で身に付くものではないため，１年生から即興で話す活動に継続的に取り組ませることで，即興で話す力を高めていきます。

学習した語句や表現などに意味のある文脈の中で繰り返し触れることができるようにしながら，様々な話題についてその場で英語を話すことに慣れていくようにします。

メモやキーワードを頼りにしながらであっても即興で発表すれば，多少の誤りやたどたどしさがあるのは当然であるという認識の下に，生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養うようにします。

生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒自身や家族に関すること，生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なことなど。

話し手として伝えたい内容や順序，聞き手に分かりやすい展開や構成などを考えたり，事実と考えを分けて整理したりするなど，話す内容を大まかな流れにしてコミュニケーションの見通しを立てる。

イ 日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

一つのテーマに沿った発表をしたり，内容に一貫性があるスピーチをしたりする。

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことであり，広く国内外で起こっている事象で，多様な考え方ができるもの。
(例) 人権問題やＩＣＴの普及など。

社会的な話題に関する教師や生徒の発話，映像や音声の教材，ニュースや新聞記事，図表，ポスター，電子メールなど，様々な音声媒体や文字媒体による情報や考えなど。

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

社会的な話題に関して聞いて分かった情報や，文章を読んで考えたり感じたりしたことなどを活用し，聞き手に話して伝える。



(5) 書くこと

スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事、休日の計画、日常の出来事など、身の回りのことで生徒の共通の話題となっていることについて（自分が関心をもっていること、趣味や好き嫌い、日記や短い説明などを書く）。

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

小学校での学習やこれまでの経験の中で触れてきた語彙や表現を含め、中学校で扱う語句や文を用いる。

文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書く。

文字言語においては、音声言語以上に正確さが重視されることから、特に「正確に」書くとしていることに留意します。

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒自身や家族に関すること、生徒の興味・関心の対象となることや社会生活に必要なことなど。（例）基本的で個人的な情報から始まり、住んでいる場所や部屋の様子、行きたい場所、家族や友人、所有しているもの、好きな動植物や飼っているペット、学校生活や家庭生活における出来事など。それらの話題について、メールや手紙、日記、レポート、スピーチ原稿などの形式により、事実を伝えたり、出来事を描写したり、考えを述べたり、気持ちを伝えたりする。

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書く。

事実やテーマから想起される自分の考えや気持ちなどを整理したメモなどを基にすること。

「導入 - 本論 - 結論」や「主題 - 根拠や具体 - 主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことができるようにします。

出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことができるようにします。

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことであり、広く国内外で起こっている事象で、多様な考え方ができるもの。（例）他教科等でも扱われる自然環境、世界情勢、科学技術、平和などの話題。

社会的な話題に関する教師や生徒の発話、映像や音声の教材、ニュースや新聞記事、図表、ポスター、電子メールなど、様々な音声媒体や文字媒体による情報や考えなど。

ウ 社会的な話題に関して 聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

「聞いたり読んだりしたこと」の要点を捉え、自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書く。

様々な題材の英文を扱うことで、聞いたり読んだりしたことの内容を理解するだけでなく、その内容に関して自分の意見や感想をもち、その内容をまとめて書くことが示されています。その際、I think や I agree などの表現を用いて賛否や自分の意見を述べたり、because や so などの接続詞を用いて自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にしたり、first や second などの副詞を用いて内容を整理して述べたりすることが考えられます。このように、論点を明らかにしたり、順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって読みやすく分かりやすい文章が書けるようになります。

(参考資料) 中学校外国語科の英語の目標と言語活動の一覧表(中学校学習指導要領を基に作成。)

	英語の目標	言語活動
聞くこと	<p>ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。</p> <p>イ 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。</p> <p>ウ 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。</p> <p>エ 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。</p>
読むこと	<p>ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p>	<p>ア 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。</p> <p>イ 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。</p> <p>ウ 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。</p> <p>エ 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。</p>
話すこと「やり取り」	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。</p> <p>イ 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。</p>
話すこと「発表」	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。</p>
書くこと	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</p>	<p>ア 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。</p> <p>イ 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。</p> <p>ウ 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。</p> <p>エ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。</p>

外国語活動・外国語科

Q 5 外国語教育における主体的・対話的で深い学びの実現はどのように図ればよいですか。

A 5

- 1 主体的・対話的で深い学びは、「知識及び技能」を体験的に身に付けること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されることを目指して行われるものです。
- 2 単元など内容や時間のまとまりを見通した授業改善を通して実現を図ります。
- 3 基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ります。
- 4 「深い学び」の視点に関して、学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」です。「見方・考え方」を、習得・活用という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげます。

1 主体的・対話的で深い学びの視点 (「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」から抜粋)

(1) 「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか。

外国語教育における「主体的な学び」のポイントは、以下のとおりです。

外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心をもつこと、生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとすることを意識すること、

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして、見通しをもって粘り強く取り組むこと、

自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげること

(2) 「対話的な学び」の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

外国語教育における「対話的な学び」とは、表面的なやり取りのことではなく、他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりすることです。

(3) 「深い学び」の視点

各教科等で身に付けた資質・能力によって支えられた、物事を捉える視点や考える方法である「見方・考え方」を活用し、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に構想して意味や価値を創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

外国語教育における「深い学び」のポイントとは、以下のとおりです。

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて思考力、判断力、表現力等を発揮する中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識が更に深まり、それらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなるようにすること。

深い理解と確実な技能に支えられて、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用されるようにすること。

2 5領域における活動を行う際の留意点

「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「読むこと」及び「書くこと」という5領域にわたる活動を、できるだけ有機的に関連させながら指導計画を考えることが重要です。そして、活動を行う際には、次の点に留意します。

領域	留意点
聞くこと	聞く目的や場面、状況などを意識した活動とすることが大切であり、聞いたことに対して何らかの形で応じたり考えを表現したりするといったように、自然なコミュニケーションを意識した活動を考える。
話すこと [やり取り] 話すこと [発表]	豊かなやり取りを通して言葉の学習を促し、それを発表できるだけの力へと育てていくようにする。 やり取りから発表へ、また時には発表からやり取りへと交互に繰り返す柔軟な指導計画の立案を行う。 やり取りの際には、最初から流暢かつ正確な言葉遣いで応答ができることを求めるべきではない。実際の指導の際には、いつも十分な準備をしてから発表するといった一定の型にこだわり過ぎずに、即興的なやり取りの機会を十分に確保していく。
読むこと 書くこと	未知語の意味や発音を指導したり、文構造や文法事項を説明したりすることに過度に時間を取られるのではなく、そこで伝えられる意味内容に留意し、生き生きとした言語活動を展開する 「書くこと」の活動に際しては、ほかの領域と同様に、何のために書くのかという目的や、誰に対して書くのかという読み手意識がもてるように、活動の提示方法、流れ、目標などを十分に考えて行う。

3 外国語教育における学習過程

目的・場面・状況に応じてコミュニケーションを行う言語活動の中で知識・技能がより深く学ばれていくことから、以下のような学習過程を通して主体的・対話的で深い学びの実現を図ります。

外国語教育における学習過程	(例)自分の町をA L Tに紹介する単元
生徒が設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。	単元の始めに、新しいA L Tやその家族から、児童生徒が住んでいる町についての情報を求めるメッセージを提示することで、自分の町について伝えたいという意欲をもたせるようにする。
目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。	児童生徒が自分の町を紹介するために必要な表現について学習するとともに、聞いたり読んだりする活動を通して、相手にどのように伝えれば興味をもって聞いたり読んだりしてもらえるかについて学んでいくようにする。
目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。	単元終末に、グループごとに自分の町について紹介するメッセージを発表し、互いに質問や助言をし合うことを通して、伝えるべき内容の質を高め、メッセージを完成させる。
言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。	単元の最後の自己評価による振り返りを行い、本時の学習を通して身に付けたことや分かったことを記録し、発表し合うようにする。

主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めます。

外国語活動・外国語科

Q 6 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるとはどのように捉えたらよいですか。

A 6

- 1 外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、外国語教育の本質と捉えることができます。
- 2 中学校における外国語教育においては、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」として示され、「外国語で表現し合う」ためには、社会や世界との関わりの中で自称w捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすること、並びに、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築していくことが重要であるとされています。
- 3 外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の鍵となるものです。
- 4 毎時間の授業を「見方・考え方」を意識したものにより、生徒は外国語教育で大事にされている物事の捉え方や考え方を理解し、個別の知識・技能が、統合された概念へと高められることが期待されます。

1 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

「見方・考え方」が、外国語で他者とコミュニケーションを行うためのものであることを示している。

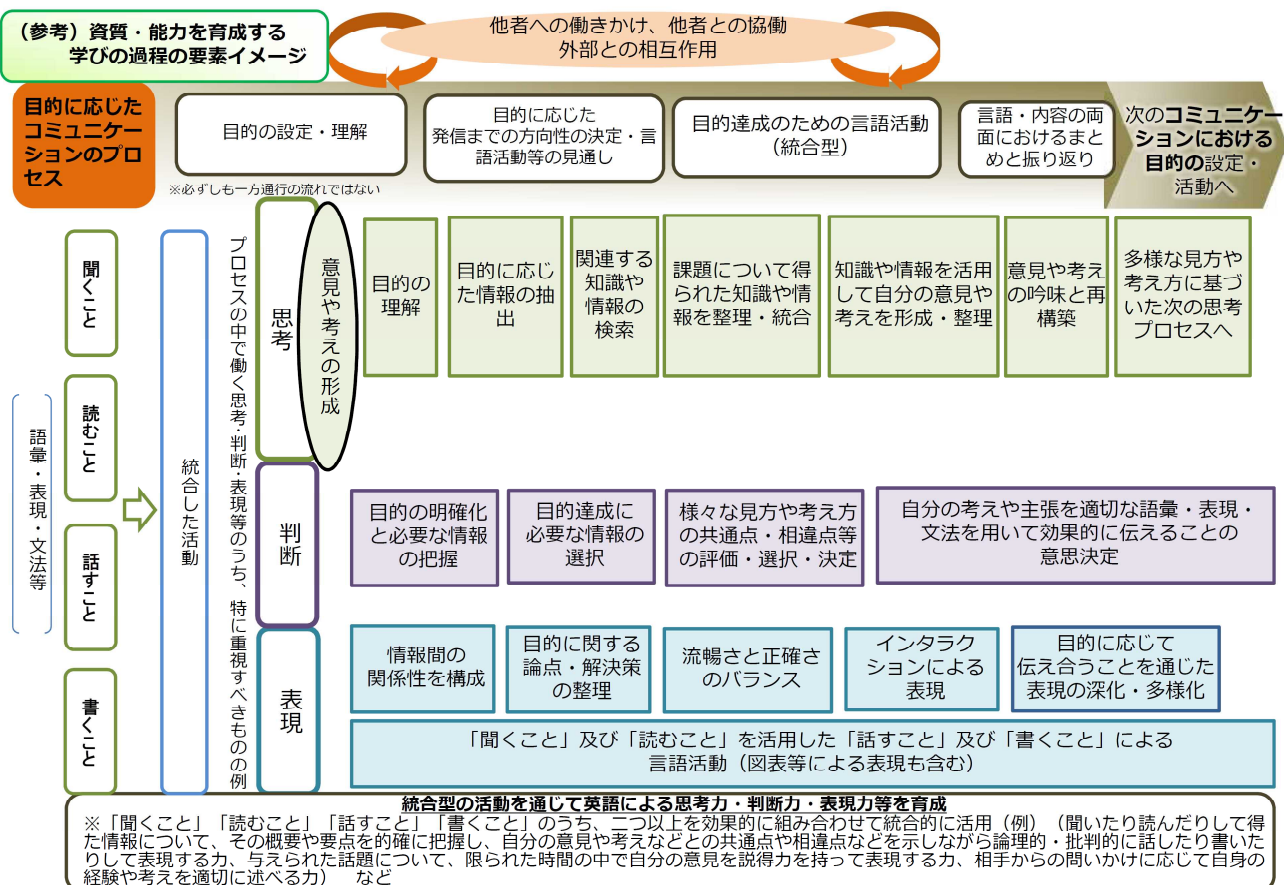
社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすること。

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすること。

2 授業改善の鍵としての「見方・考え方」

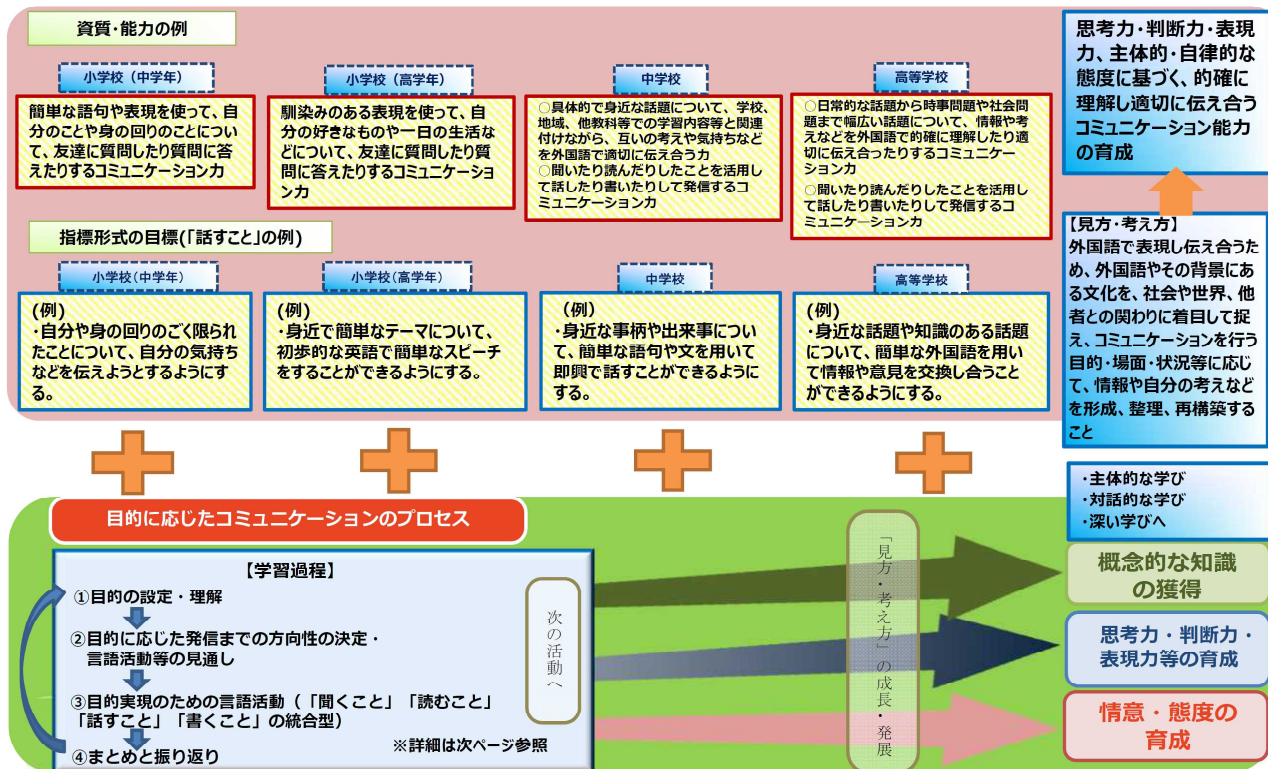
外国語によるコミュニケーションの一連の過程を通して、「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、生徒の発達段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが大切です。この「見方・考え方」を確かで豊かなものとする中で、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになります。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながります。



外国語教育における「見方・考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ)

資料 7

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成



外国語科

Q 7 「知識及び技能」を身に付けさせる際に留意することは何ですか。

A 7

- 1 「知識及び技能」は、改訂前の「言語材料」を、「英語の特徴やきまりに関する事項」として「音声」、「符号」、「語、連語及び慣用表現」及び「文、文構造及び文法事項」に整理した上で、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するという「知識」の面と、その知識を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できるという「技能」の面とで構成しています。
- 2 小学校で学んだ語彙や表現などについて、中学校の言語活動で、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めるようにします。

1 「知識及び技能」の内容

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)及び次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの個別の知識は、どれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、生徒の学びの過程全体を通じて、各領域の目標を達成するのにふさわしいものとして、それらを理解し、「実際に英語を用いた言語活動」において活用し、主体的に運用する技能が習熟・熟達に向かったり、後述の思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識が獲得され、学習内容の理解が深まり、学習に対する意欲が高まったりするなど、三つの柱で整理された資質・能力が相互に関係し合いながら育成されるようにします。

ア 音声

次に示す事項について取り扱うこと。

- (ア) 現代の標準的な発音
- (イ) 語と語の連結による音の変化
- (ウ) 語や句、文における基本的な強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション
- (オ) 文における基本的な区切り

イ 符号

感嘆符、引用符などの符号

小学校の外国語科において、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現の中で終止符や疑問符、コンマなどの符号を示したり、児童に書き写させたりしていることを踏まえて、中学校においては符号の意味や使い方を理解し、コミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせるようにします。

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1 に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる，小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語
- (イ) 連語のうち，活用頻度の高いもの
- (ウ) 慣用表現のうち，活用頻度の高いもの

生徒の発達の段階に応じて，聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき語彙（受容語彙）と，話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙（発信語彙）とがあり，ここで示されている「1600～1800語程度」の全てを生徒が発信できるようにすることが求められているわけではないことに留意します。また，受容語彙と発信語彙は一律には規定されないという点にも留意します。

エ 文及び文構造

次に示す事項について，日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに，基本的な表現として，意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

- (ア) 文
 - a 重文，複文
 - b 疑問文のうち，助動詞（may，will など）で始まるものや or を含むもの，疑問詞（which，whose）で始まるもの
 - c 感嘆文のうち基本的なもの
- (イ) 文構造
 - a [主語＋動詞＋補語]のうち，主語＋be 動詞以外の動詞＋名詞／形容詞
 - b [主語＋動詞＋目的語]のうち，
 - (a) 主語＋動詞＋動名詞／to 不定詞／how（など）to 不定詞
 - (b) 主語＋動詞＋that で始まる節／what などで始まる節
 - c [主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]のうち，
 - (a) 主語＋動詞＋間接目的語＋名詞／代名詞
 - (b) 主語＋動詞＋間接目的語＋how（など）to 不定詞
 - (c) 主語＋動詞＋間接目的語＋that で始まる節／what などで始まる節
 - d [主語＋動詞＋目的語＋補語]のうち，
 - (a) 主語＋動詞＋目的語＋名詞／形容詞
 - (b) 主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞
 - e その他
 - (a) There ＋ be 動詞 ＋ ～
 - (b) It ＋ be 動詞 ＋ ～（＋ for ～）＋ to 不定詞
 - (c) 主語 ＋ tell，want など ＋ 目的語 ＋ to 不定詞
 - (d) 主語 ＋ be 動詞 ＋ 形容詞 ＋ that で始まる節
- (ウ) 文法事項
 - a 代名詞
 - (a) 人称や指示，疑問，数量を表すもの
 - (b) 関係代名詞のうち，主格の that，which，who，目的格の that，which の制限的用法

- b 接続詞
- c 助動詞
- d 前置詞
- e 動詞の時制及び相など
現在形や過去形，現在進行形，過去進行形，現在完了形，現在完了進行形，助動詞などを用いた未来表現
- f 形容詞や副詞を用いた比較表現
- g to 不定詞
- h 動名詞
- i 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法
- j 受け身
- k 仮定法のうち基本的なもの

小学校では、「文」は「基本的な表現」として扱われ、文構造、文法事項などを取り出して指導することはありません。そのため、「代名詞のうち、I, you, he, she などの基本的なものを含むもの」及び「動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの」は「文」の中で扱われていることに留意します。

追加された指導事項（『中学校学習指導要領解説外国語編』pp.29-51を基に作成）

指導事項	例文
感嘆文のうち基本的なもの	How interesting! What a big tree!
主語＋動詞＋間接目的語＋thatで始まる節／whatなどで始まる節	My brother told me that he would come to the party. Can I tell her where you live? Please teach me what I have to do now.
主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞	Will you let me try? I helped my father wash the car.
主語＋be動詞＋形容詞＋thatで始まる節	I'm glad that you like it. I'm sure that many people will live with a robot in the future.
現在完了進行形	It has been raining since this morning. Masashi and Yukio have been playing soccer for two hours.
仮定法のうち基本的なもの	If I were you, I would ask my best friend to help me. If you had five million yen, what would you do? I wish I knew my cat's feelings. She is always crying in the house. I wish my mother didn't have too many things to do today. I want to go shopping with her to buy her birthday present.

接続詞（and, but, or, that, if, when, because）も新設の文法事項として扱われています。

2 小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)の言語材料

<p>ア 音声</p> <p>次に示す事項のうち基本的な語や句，文について取り扱うこと。</p> <p>(ア) 現代の標準的な発音</p> <p>(イ) 語と語の連結による音の変化</p> <p>(ウ) 語や句，文における基本的な強勢</p> <p>(エ) 文における基本的なイントネーション</p> <p>(オ) 文における基本的な区切り</p> <p>イ 文字及び符号</p> <p>(ア) 活字体の大文字，小文字</p> <p>(イ) 終止符や疑問符，コンマなどの基本的な符号</p> <p>ウ 語，連語及び慣用表現</p> <p>(ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる，第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語</p> <p>(イ) 連語のうち，get up，look atなどの活用頻度の高い基本的なもの</p> <p>(ウ) 慣用表現のうち，excuse me，I see，I'm sorry，thank you，you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの</p>	<p>エ 文及び文構造</p> <p>次に示す事項について，日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに，基本的な表現として，意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。</p> <p>(ア) 文</p> <p>a 単文</p> <p>b 肯定，否定の平叙文</p> <p>c 肯定，否定の命令文</p> <p>d 疑問文のうち，be動詞で始まるものや助動詞（can，do など）で始まるもの，疑問詞（who，what，when，where，why，how）で始まるもの</p> <p>e 代名詞のうち，I，you，he，sheなどの基本的なものを含むもの</p> <p>f 動名詞や過去形のうち，活用頻度の高い基本的なものを含むもの</p> <p>(イ) 文構造</p> <p>a [主語＋動詞]</p> <p>b [主語＋動詞＋補語]のうち，</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">主語＋be動詞＋</div> <div style="font-size: 2em;">{</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div>名詞</div> <div>代名詞</div> <div>形容詞</div> </div> </div> <p>c [主語＋動詞＋目的語]のうち，</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">主語＋動詞＋</div> <div style="font-size: 2em;">{</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div>名詞</div> <div>代名詞</div> </div> </div>
--	---

3 外国語活動の「知識及び技能」の内容

<p>(1) 英語の特徴等に関する事項</p> <p>実際に英語を用いた言語活動を通して，次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。</p> <p>イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。</p> <p>(ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに，日本語との違いを知り，言葉の面白さや豊かさに気付くこと。</p> <p>(イ) 日本と外国との生活や習慣，行事などの違いを知り，多様な考え方があることに気付くこと。</p> <p>(ウ) 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し，文化等に対する理解を深めること。</p>

外国語科

Q 8 「思考力、判断力、表現力等」を育成する上で留意することは何ですか。

A 8

- 1 「思考力、判断力、表現力等」の内容は、「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」として、「英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること」、「英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること」及び「伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと」の3点に整理されています。
- 2 「思考力、判断力、表現力等」を身に付けるために、外国語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を捉え、それを整理したり吟味したりしながら思考を深めることで、自らの考えを形成したり深化させたり、さらに、表現を選択したりして「論理的に表現」することを重視します。
- 3 「具体的な課題等」の解決に向け、実際に英語を用いた言語活動の中で思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識及び技能が習得され、学習内容の理解が深まり、学習に対する意欲が高まるなど、三つの柱で整理された資質・能力が相互に関係し合いながら育成されるようにします。

「思考力、判断力、表現力等」の内容

- (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

小学校外国語科では示されず、中学校外国語科において追加されている。

外国語教育においては、生徒が、

設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、

目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、

目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、

言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、「思考力、判断力、表現力等」を高めたりすることが大切です。

生徒の日々の生活に関わる話題や社会で起きている出来事や問題に関わる話題のこと。

- ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして 必要な情報や考えなどを捉えること。

目的や場面、状況などに応じて何を聞き取らなければならないか、あるいは読み取らなければならないのかを判断し、聞いたり読んだりして理解した情報を整理したり、吟味したり、既にもっている知識と照らし合わせて関連付けたりして、必要な情報や考えなどを理解する。

聞いたり読んだりすることの全てを必ずしも一字一句理解しなければならないわけではなく、とに留意します。実際の指導に当たっては、コミュニケーションの目的や場面、状況などを考えた上で、指導する内容の焦点化を図り、指導方法を工夫します。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

統合的な言語使用の中で、聞いたり読んだりして得られた情報や表現を整理・吟味し、話したり書いたりするために活用するようにします。

聞いたり読んだりして得た情報のうち、どの情報を取り上げるのか、またどの表現が話したり書いたりする上で活用できるのかについて考えさせます。

ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。

自分のもつ情報や考えをただ一方的に伝えるのではなく、相手が話したり書いたりした内容にも十分に注意を傾けながらやり取りをし、お互いの理解を深められるようにしていくこと。

必ずしもいつも十分な準備をした上で言語活動をするを求めているわけではありません。メモ書きなどの補助を利用しつつ、即興で話したり書いたりする活動を行い、その過程で相手からフィードバックを受けたり、同じタスクを相手や役割を変えながら複数回繰り返しながら学びを深めていく活動を行うことも大切です。

書く際にも、推敲を重ねる中で、徐々に伝える内容を整理していくようにします。そのため、実際の指導の際には、最初から流暢かつ正確な英語使用を求め過ぎない配慮が必要です。

小学校外国語教育における「思考力、判断力、表現力等」の内容

外国語活動	小学校外国語科
具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。	ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。
イ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。	イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

外国語科

Q 9 言語活動を設定する際に留意することは何ですか。

A 9

- 1 「思考力、判断力、表現力等」を育成するに当たり、「知識及び技能」を活用して、五つの領域ごとの具体的な言語活動を通して指導します。
- 2 小学校中・高学年の学習内容の定着の状況などの生徒の実態を踏まえながら、初年次の導入段階から必要な言語活動を通じた学習を繰り返し行い、小学校からの学びを中学校段階へ接続させます。生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し、話したり書いたりして表現できるような段階まで確実に定着させることが重要です。
- 3 言語活動を設定するに当たっては、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにします。

1 言語活動に関する事項

知識及び技能。

言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

思考力・判断力・表現力等。

ア 小学校学習指導要領第2章第10節外国語の第2の2の(3)に示す言語活動のうち、小学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

小学校の高学年で指導された簡単な語句及び基本的な表現や、高学年における文字の認識、語順の違いなどへの気付き等に関して指導された内容。

2 小学校外国語科の言語材料

ア 音声

次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。

- (ア) 現代の標準的な発音
- (イ) 語と語の連結による音の変化
- (ウ) 語や句、文における基本的な強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション
- (オ) 文における基本的な区切り

小学校では

- ・ 日本語の発音にはない母音や子音があること、また、発音が子音で終わることなど、日本語と英語の音声の特徴や違いに気付かせ、多様な人とのコミュニケーションが可能となる発音を身に付けさせます。
- ・ 一語一語を切り離して発音せず、複数の語を連続して発音することが多いことを踏まえて慣れさせるようにします。音の変化の指導に当たっては、音声で十分に慣れ親しんだ表現として繰り返し触れさせるとともに、英語のリズムを大切にしながら発音させるようにします。
- ・ 英語の語や句、文には、それぞれ強く発音される部分とそうでない部分があり、強勢があることによって英語特有のリズムが生まれることに気付かせるようにします。
- ・ 音声で十分慣れ親しんだ表現について、基本的なイントネーションに気付き、話す場合に用いることができるように指導します。
- ・ 文における区切りは、まとまった表現として音声に十分慣れ親しませる中で扱います。

イ 文字及び符号

- (ア) 活字体の大文字、小文字
- (イ) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号

小学校では

- ・ 文字指導に当たっては、文字の細部を指導するのではなく、コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ、ほかの文字と区別して認識できるように丁寧に書いたり、適度な速さで書いたりすることを意識させます。また、第3学年国語科において日本語のローマ字表記が指導されていることを踏まえ、指導の工夫をします。

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語
- (イ) 連語のうち、get up, look atなどの活用頻度の高い基本的なもの
- (ウ) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの

小学校では

- ・履修する語には、意味が理解できるように指導すべき語彙（受容語彙）と、表現できるように指導すべき語彙（発信語彙）とがあります。小学校段階では、聞いて意味を理解できるようにする語彙と、話して表現できるようにする語彙が中心となります。

エ 文及び文構造

次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

(ア) 文

- 単文
- 肯定、否定の平叙文
- 肯定、否定の命令文
- 疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞（can, do など）で始まるもの、疑問詞（who, what, when, where, why, how）で始まるもの
- 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの
- 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの

小学校では

- ・文法の用語や用法の指導を行うのではなく、言語活動の中で日本語と英語の語順の違い等の気付きを促すようにしたり、基本的な表現として繰り返し聞いたり話したりするなどして活用したりします。

(イ) 文構造

- 〔主語＋動詞〕
- 〔主語＋動詞＋補語〕のうち、主語＋be動詞＋名詞／代名詞／形容詞
- 〔主語＋動詞＋目的語〕のうち、主語＋動詞＋名詞／代名詞

3 小学校外国語科の言語活動

領域	外国語科
聞くこと	<p>(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。</p>
読むこと	<p>(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。</p> <p>(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。</p> <p>(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。</p> <p>(エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。</p>
話すこと 〔やり取り〕	<p>(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。</p> <p>(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。</p>
話すこと 〔発表〕	<p>(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>
書くこと	<p>(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。</p> <p>(ウ) 相手に伝えるなどの目的をもって、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。</p> <p>(エ) 相手に伝えるなどの目的をもって、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。</p>

外国語科

Q10 「聞くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A 10

- 1 「聞くこと」の言語活動には、身近で簡単な事柄について、イラストや写真などと結び付けたり、具体的な情報を聞き取ったり、必要な情報を得る活動があります。
- 2 小学校における学習で育成された「聞くこと」の力を更に伸ばし、自然な口調で話されても相手の言っていることが理解できるようにします。
- 3 「自分が必要とする情報」、「概要や要点」など、「聞くこと」においては、目的に応じて様々な聞き取り方を指導します。
- 4 「理解した」状態とは、聞いた内容を話したり書いたりして説明することができる段階まで至ることと考えられますが、例えばひな形を与えたり、単語のみでの発話や筆記を許容したりするなど、「話すこと」や「書くこと」の活動に対するつまずきを極力軽減する配慮が必要です。

正しい強勢やイントネーション、区切りを伴って自然な速さで話されるなど、話し方が自然な英語のこと。

伝えたいことや求めていること。

(ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。

第2の1(1)「聞くこと」ア「はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする」、イ「はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする」及びウ「はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする」の全てに関連しています。

聞く活動を行う際は、ICTを利用したりネイティブ・スピーカーの協力を得たりして、なるべく自然な口調で話される音声に触れさせ、慣れさせるようにします。教師自身が極端に遅く話すのではなく、初めからできるだけ自然な口調の英語を用いるように留意します。

授業の指導過程の中で、「聞くこと」を通して理解する活動を意図的に繰り返すことが大切です。

【活動例】

教師が、授業の最初に最近の出来事について生徒に話したり、ALTなどによる簡単なスピーチを聞かせたりする活動を頻繁に取り入れる。

(イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。

第2の1(1)「聞くこと」ア「はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする」に関連しています。

言語活動を行うに当たっては、聞く際の状況や目的を明示して、どのような情報が必要かを考えさせた上で、その部分に集中して聞き取らせるようにします。

【活動例】

カメラなどの商品のコマーシャルが題材の場合、最初に聞く際には「どのような機能があるのか知りたい」、次に聞く際には「値段を知りたい」など、聞き手が置かれた状況の設定を行うことなど。

話し手からの質問や指示、依頼、提案など。

(ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する 簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。

第2の1(1)「聞くこと」ア「はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする」及びウ「はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする」に関連しています。

依頼や提案などの話し手からの働き掛けに対する反応の仕方は、場面や状況、聞き手によって様々です。したがって、場面などの設定に工夫をしながら様々な活動を行わせ、どのような応答があり得るか考えさせるようにします。また、単純に応答するだけでなく、相手の言ったことに対して確認したり交渉したりするなど、やり取りを伴う応答も指導する必要があります。

【活動例】

- ・ 相手の依頼などを承諾したり断ったり、内容を確認したり交渉したりする。
- ・ 部屋に入ってきた相手が“ It's hot here. ”と言ったことに対し、“ I've just turned on the air conditioner. ”と説明したり、“ Shall I open the window? ”と提案したり、“ Oh, you are hot! ”と言いながら窓を開ける動作をしたりする。

(I) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で 説明する活動。

全体的な内容を理解したり、大切な部分を正確に捉えたりする。

聞き取ったことについて友達と説明し合ったり、理解したことを基に意見交換を行ったりする。

第2の1(1)「聞くこと」イ「はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする」及びウ「はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする」に関連しています。

聞いて理解することだけで終わらず、聞いた内容をどのように話すことや書くことにつなげるのが大切です。

【活動例】

「日常的な話題」としては、例えば、ある人物の生い立ちを聞き、そのあらましを把握し、主な出来事をほかの生徒に伝える、修学旅行先を考えるディスカッションを聞き、メモを基に各生徒が述べた場所とその理由をまとめて説明したりする、あるいは、「中学校生活で最も思い出に残っていること」や「中学生全員が部活動に入るべきか」などのテーマについて数人のスピーチを聞き、主な発話内容を整理して話したりする。

ラジオなどのはっきりと話される英語のニュースを聞いてその中の重要な情報を聞き取るといった、「社会的な話題」を扱うことも必要です。こうした活動においては、聞き取る際の状況や目的を明らかにし、聞き取った後でどのような活動を行うのかをあらかじめ説明しておくなどの工夫が必要です。

「概要や要点を把握」することの指導に当たっては、話の概要を捉える際にはどのようなことが話されているかを考えながら、話の要点を捉える際には話し手の最も伝えたいところはどこかなどを考えながら、会話や説明などを聞くように生徒にあらかじめ伝えておきます。

外国語科

Q11 「読むこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A 11

- 1 「読むこと」の言語活動には、黙読したり音読したりする活動、日常的な話題について「自分が必要とする情報や概要を読み取る活動、社会的な話題について要点を読み取ったり、考えなどを述べたりする統合的な活動があります。
- 2 読み取る内容としては、「自分が必要とする情報」、「概要」、「要点」があり、目的に応じて様々な読み取り方を指導します。
- 3 日常的な話題について読ませる時はできるだけ現実に近い場面を設定します。また、学習者のレベルに合ったまとまりのある文章を最初から最後まで読む機会をできるだけたくさん設定したりします。
- 4 必要な情報を捉えさせたり、意味のまとまりごとに英文を捉えさせる際は、逐語的な読みから脱却することに留意します。
- 5 社会的な話題について読ませる時は、文章全体としての構成や論理の展開を押さえさせた上で、読む目的に応じた要点を把握させます。

文章全体を通してどのように物語や論述が進んでいるのか、どのように話をまとめているのか等の文章の構成を意識しながら、

- (ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。

説明文、意見文、感想文、対話文、物語などの意味内容を正しく理解し、その意味内容にふさわしく音声化する。その際、発音・アクセントの正確さとともに、間の取り方等を考えながら、相手に伝えるために読む。また、対話文やスキット等においては、登場人物らしく強く読んだり、弱く読んだり、声の大きさを変えて読んだり、読む速さを変えたりするなどして、喜び、悲しみ、怒りなどの感情を豊かに表現し合ったりする。

第2の1(2)「読むこと」ア「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする」、イ「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」及びウ「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする」の全てに関連しています。

黙読の指導では、読み手が自分に合った速度で読むことができ、確認のため繰り返して読んだり、前に戻って読み返したりすることで柔軟な読み方をすることができる黙読の特徴を十分に生かすようにします。また、音読の指導では、単なる練習としての音読にとどまることのないよう、指導者も学習者も、書かれた文章の本来の目的を確認した上で、そもそも音読することがふさわしいのか、ふさわしいとすればその音読はどのような目的で行われるのかを明確に意識させるようにします。

- (イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。

第2の1(2)「読むこと」ア「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする」に関連しています。

指導に当たっては、「日常的な話題」に関して、できるだけ現実に近い場面を設定するとともに、逐語的な読みから脱却し、自分が必要とする情報を捉えさせます。読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していく必要があります。

【活動例】

簡単な語句や短い文で書かれたスポーツクラブのパンフレットを複数示し、自分が通うことのできる曜日に自分が体験したいスポーツを実施しているクラブはどれなのかを探させるなどの活動。

(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。

文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする。

第2の1(2)「読むこと」イ「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」に関連しています。

指導に当たっては、学習者のレベルに合ったまとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会をできるだけたくさん設定します。この際、逐語的な読みから脱却し、意味のまとまりごとに英文を捉えさせるようにします。

【活動例】

諸外国の中学校生活を紹介している短い文章を読む際に、それぞれの情報の関係を示す接続詞に注目させながら文章の流れを理解するためのキーワードを拾わせ、全体としての内容を数文の英語でまとめさせたりするなどの活動

友人や教師が休日を過ごした中で感じたことなどのエッセイを読む際には、出来事を時系列に沿って整理させ、どんな内容を伝えようとしているのかを絵や簡単な英語で表現するなどの活動

活動を取り入れる際には、ペアやグループになり、読み取った内容について生徒同士で考えを伝え合うなど、学習形態の工夫をします。

社会生活で使われる様々な形式の視覚情報など。

(I) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

第2の1(2)「読むこと」ウ「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする」に関連しています

指導に当たっては、(ウ)の活動を通して身に付けた概要を把握する力と関連付け、文章全体としての構成や論理の展開を押さえた上で、読む目的に応じた要点を把握させます。その際、収集・整理した複数の情報を取り出して総合的に判断し、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、要点を把握するだけで終わるのではなく、領域間の統合的な言語活動を工夫するようにします。

【活動例】

地球温暖化などの環境問題に関する説明文を読み、イラストや図表なども参考にしながら筆者の主張を数文でまとめた上で、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり、更にそれを簡潔に書いて表現する活動へと発展させたりする活動。

外国語科

Q12 「話すこと [やり取り]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A 12

- 1 「話すこと [やり取り]」の言語活動には、関心のある事柄について即興で伝え合う活動、日常的な話題について、伝えたい内容を整理して伝え合う活動、社会的な話題について聞いたり読んだりしたことを基に考えなどを伝え合う統合的な活動があります。
- 2 生徒がやり取りを継続したり、即興で伝え合ったりできるようにするために、教師や生徒、又は生徒同士がやり取りを行う機会を継続的に設定します。その上で、生徒の発話内容や表現を教師が言い換えて例示するなど、生徒の実態に応じて段階的に進めるとともに、生徒の多様な考え方が生かされるように指導します。

即興で事実や意見、感情等を伝え合いながら、会話を継続・発展させ、情報や考えなどを理解したり、適切に伝えたりする。

(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

第2の1(3)「話すこと [やり取り]」ア「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」に関連しています。

身近な話題を選択したり、スピーチ活動などで扱ったことのあるテーマを取り上げるなど既習事項等を活用したりすることや、伝え合う活動を継続的にを行い、生徒が自分の言いたいことを即興で表現できる範囲を徐々に拡大していきます。

(会話を継続・発展させるために必要なことの例)

相手に聞き返したり確かめたりする (Pardon? / You mean..., right? など)

相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりする (I see. / Really? / That's nice. など)

相手の答えを受けて、自分のことを伝える (I like baseball, too. など)

相手の答えや自分のことについて伝えたことに「関連する質問」を付け加える (What kind of Japanese food do you like? / How about you? など)

やり取りにおいては、話の切り出し方や質問の仕方、その内容などが会話の流れや方向性を決めることが多いため、会話を継続する力が習慣的に身に付くようにします。

【活動例】

自ら話のきっかけを作ったり対話を始めたりすることや、会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にしたりする場面を様々な言語活動の中に設定する。

指導の重点を内容の伝達に置きながら、活動中の言語使用について具体的にフィードバックしたり、活動後に生徒が自分の使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与えたりする。

小学校外国語科での「自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動」の経験を生かし、内容を伝え合うことに重点を置いた指導を心掛け、伝えようとする意欲を大切にします。

自分から事実や考え、気持ちなどを整理して伝えた後に、その内容に関する質問に適切に応答したり聞き返しをしたりしながら対話を継続させ、情報や考えなどを共有する。

- (イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。

第2の1(3)「話すこと[やり取り]」イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」に関連しています。

生徒が伝えようとする内容を表現するために、限られた時間でまとまりのある文章を頭の中で組み立てたり、質問に対して的確に反応したりする活動に取り組ませる際は、自分の考えなどを短時間で構成して伝え、質問に答えできるようになるための橋渡しとして、大まかな流れや主要な点を書いたメモに基づいて伝え合うなど段階的に指導します。

生徒の実態や習熟の程度を考慮し、考えを整理するための時間を設定したり、詳細なメモからキーワードのみによるメモまで、作成する「メモ」の条件を適切に示したりするなど、計画的に指導します。

「伝えようとする内容を整理」して話すことと「即興」で話すこととは、必ずしも相反するものではなく、このような言語活動を数多く経験させ、即興でまとまりのある内容を整理して話し、応答することができる力を育成していきます。

事実や情報をやり取りのきっかけとして、自分の経験と結び付けながら、ということ。

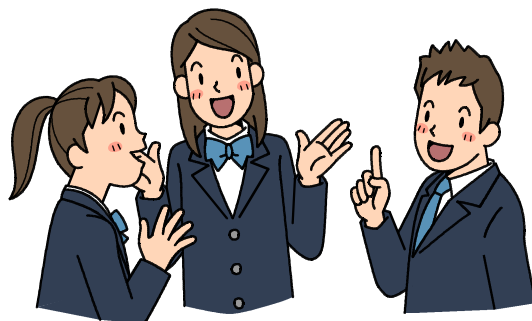
どのような考えが望ましいのか、自分であればどのような行動をとるか、またその理由。

- (ウ) 社会的な話題に関して 聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。

第2の1(3)「話すこと[やり取り]」ウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする」に関連しています。

聞いたり読んだりして得られた内容を共通の話題として、生徒がお互いに質問し合い、応答し合いながら、ペアやグループ等において多様な考え方や立場を共有する、統合的な活動です。

実際の指導に当たっては、聞いたり読んだりする前に教師や生徒、又は生徒同士がやり取りを行い、テーマに関連した情報を共有したり整理したりした上で、意見などを形成する段階において生徒が発話した語句を取り上げ、それを基に教師が簡単な文として言い換えて例示するなど、生徒の実態に応じて段階的に進めるとともに、生徒の多様な考え方が生かされるように指導することが重要です。



外国語科

Q13 「話すこと[発表]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A13

- 1 「話すこと[発表]」の言語活動には、関心のある事柄について、その場で考えを整理して説明する活動、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動、社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことを基に、メモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動があります。
- 2 語彙や表現、文法などは、活用することで実際のコミュニケーションを図ることができるような知識として習得されるという視点から、それらを習得させていきます。
- 3 即興で話させる時は、伝える内容に重点を置きながら、生徒の多様な発話を促し、その様子を見て必要に応じて適切な語彙や表現などを助言します。

学校行事や日常の出来事など生徒の共通の話題になっている事柄。

(ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。

第2の1(4)「話すこと[発表]」ア「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする」に関連しています。

【活動例】

一つの出来事を述べる場合に、学習した文法事項やその習熟の度合いによって様々な言い方が可能であることを、一度説明した後で、ペアやグループでよりよい説明の仕方や表現について振り返る機会を作ったり、ネイティブ・スピーカーの説明をモデルとして聞き、効果的な説明の仕方を確認したりした後で、類似した話題や事柄を取り上げ、再度口頭で説明する活動に取り組む機会を設ける。

即興で話させる時は、初めから正確さを求めたり、必要な表現を練習したりしてから行うのではなく、伝える内容に重点を置きながら、教師は生徒の多様な発話を促し、その様子を見て必要に応じて適切な語彙や表現などを助言します。

実物や写真、タブレット端末などを補助として用いて発表するなどの工夫をするとともに、つなぎ言葉や言い直し、身振り手振りなども用いて、生徒が楽しみながら主体的に即興で話す活動に取り組むことができるようにします。

学校生活や趣味、週末や長期休暇の出来事や計画などの生徒の身近な暮らしに関わる様々な話題。

(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。

話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開や構成を考えて、それらをメモにするなどして整理し、

第2の1(4)「話すこと[発表]」イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」に関連しています。

指導に当たっては、次のことに留意します。

- ・ スピーチをする際は、その目的を明確にしておく。

（例） スピーチをすることで自分のことをよりよく知ってもらう。

興味・関心のある事実とそれに対する考えや気持ちなどを伝えることで聞き手に考えるきっかけを与えたり、行動を促したりする。 など

- ・ 話し手として伝えたい事実や考えなどの順番を考えたり、話のテーマに沿った展開になっているかを確認したりする。

（例） ブレインストーミングで構想を膨らませた後に、スピーチの概要や大筋を箇条書きにしたり、展開を図式化するなどして整理する時間を取ったりする。 など

- ・ ペアでスピーチの練習をする際などに、分かりづらかった表現を確認したり、聞き手に分かりやすい語句や表現を調べたり考えたりする活動を取り入れて、聞き手に配慮したスピーチになるように指導する。

- ・ コミュニケーションとしてのスピーチとなるようにする。

（例） アイコンタクトや姿勢、表情などに加えて、聞き手に問いかけたり、問いかけた後に考える間を取ったりする。 など

環境問題や人権問題など。

得た知識や情報をメモにしたり図式化したりした上で、

(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから 把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする 活動。

複数の領域（聞く・読む・話す）を統合して行う活動。

第2の1(4)「話すこと[発表]」ウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする」に関連します。

キーワードを書いたり、書いたキーワードや語句を棒や矢印を用いて図にしてつないだりするなどのメモの取り方についても指導します。聞き取りや読み取りのためのメモではなく、目的に応じたメモとなるように、複数のメモを比較させたり、よくできているメモを例示してどのような点が優れているかを話し合ったりすることや、一度発表した後で、メモを修正したり生徒同士でメモを共有したりするようにします。

（目的の例） 「内容を口頭で要約して伝える」

「自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝える」 など

「口頭で要約」する言語活動では、一律に要点をまとめるだけでなく、互いが話す英語を聞く必要性や意味がもてるような活動にすることも必要です。

（活動例） 生徒一人一人の興味・関心や考えに応じて焦点を当てたい部分を選択してまとめたり、聞いたり読んだりする英文を分担したりなどする。 など

「自分の考えや気持ちなど」を話して伝える言語活動では、聞いたり読んだりしたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えるようにします。そのためにも、自分の考えや気持ちなどを述べる際には、理由を考えさせたり、生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりする活動も継続的に行っていく必要があります。

発表して終わりにするのではなく、発表の内容や様子を振り返る機会を設け、生徒自身が新たな課題を把握し、こうした言語活動の積み重ねを通して、考えたり感じたりしたことをより適切に表現できるようにします。

【活動例】

発表の内容や構成、表現などについてよくできていた点を賞賛するとともに、具体的な助言を与える。 など

外国語科

Q14 「書くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A14

- 1 「書くこと」の言語活動には、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動、手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動、日常的な話題についてまとまりのある文章を書く活動、社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動があります。
- 2 何をどのように書けばよいかを指導します。
- 3 生徒が関心をもっている話題などと関連付けて扱うなどして、意欲的に書く機会を増やす工夫を行います。
- 4 自分の考えや気持ちなどが伝わるように文章を書くために、時間の確保や、ICTを活用した活動の充実を図ります。
- 5 基本的な語彙や表現に親しむ機会を、「聞くこと」、「読むこと」及び「話すこと」の活動を通して多く与えるとともに、「書くこと」の活動につなげます。
- 6 「書いて伝える」ことに対する意欲を高め、求められている内容を適切にまとまりよく書くための工夫について指導します。
- 7 内容を聞いたり読んだりして理解し、それを基に思考・判断したことについて、自分の考えや気持ちなどを主体的に伝え合う言語活動を設け、その発話内容を整理しながら書くといった領域間の統合を図ります。

「日常的な話題」や「関心のある事柄」の具体例。

(ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。

第2の1(5)「書くこと」ア「関心のある事柄」について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする」に関連しています。

【活動例】

- ・ 自分が好きなことや嫌いなこと、日常的に行っていることや過去の行動などに関する事柄について、生徒が自己紹介を行ったり、学校や家庭での生活、休日の過ごし方などについて話したり、将来の夢について語ったりするなどの言語活動を経て、簡単な語句や文を用いてその内容を書く活動。

「書くこと」の指導の留意事項

日頃から、自分の考えや気持ちをペアやグループで簡単な語句や文を用いて口頭で伝える活動をした後に、その内容を書いてまとめる、といった言語活動を設定するなど、何をどのように書けばよいかを指導します。また、「話すこと」と「書くこと」の順序についてバランスをとりながら指導に当たすることに留意します。

実際に書く活動を行う前には、手本となるような文章を数多く提示し、その表現を活用したり入れ替えたりしながら書き方を学ばせた上で、その後に自分の力で書くことができるようにするといった段階を踏むようにします。

「書くこと」におけるつまずきには、綴りや語順、文法、語彙だけでなく、発想や情報整理、文章構成など、様々なものが見られます。小学校で慣れ親しんだ語句や表現を用いて、英語の書き方の規則や語順を意識させるとともに、生徒一人一人をよく見取り、個の習熟度に応じて、ヒントを示したり、辞書の使用を促したり、直接的・間接的に誤りの修正を行ったりします。また、学習集団全体に共通する語法や文構造等に関する誤りについては、機会を捉えて説明し直し、自分が書いたものを修正させるなどの手立てを通して、徐々に正確に書けるように指導します。

(1) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。

受け手を意識し、状況設定を明確にした上で、自分の考えや気持ちなどが伝わるように文章を書く。

第2の1(5)「書くこと」イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」に関連しています。

生徒が関心をもっている身近な話題や生徒の体験などと関連付けて扱うなどして、意欲的に書く機会を増やす工夫を行うようにします。

様々な形式により、自分の考えや気持ちなどが伝わるように文章を書くために、時間の確保や、メールなどの操作・練習のためのICTを活用した活動の充実を図ります。

【活動例】

- ・ 季節の挨拶状、ホームステイにまつわる手紙、家族や親戚、友達などに自分の近況を伝える手紙、旅行先からの手紙や葉書、ファンレターなどに加え、留守番電話などの伝言を聞いてその返事を電子メールで送る活動
- ・ 関心のある話題について、新聞の投稿欄などに投稿する活動 など

学校行事や部活動、休日の過ごし方など、具体的に関心が高く、想起しやすいもの。

(ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

(例) 1日の日課や先週末にしたことなど。

第2の1(5)「書くこと」イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」に関連しています。

簡単な語句や文を用いて日記などの形式によって英文を書く機会を増やす工夫を行います。また、起こった出来事を書く場合は、時間を追って順序よく描写できるような力を付けるようにします。

「出来事などを説明する」ためには、必要な人物、場所、活動などを描写する基本的な語彙や表現に親しむ機会を、「聞くこと」、「読むこと」及び「話すこと」の活動を通して多く与え、それらを「書くこと」の活動につなげます。また、単に出来事を描写するだけでなく、「書いて伝える」ことに対する意欲を高め、求められている内容を適切にまとまりよく書くための工夫について指導します。

「出来事などを説明するまとまりのある文章」を書くために、

キーワードを整理して書くことや、5W1Hを意識しながら全体の構成を考えて書くこと、文と文のつながりを示す語句を効果的に用いながら書くことができるように指導します。また、まとまりのある文章を書くことに慣れていない生徒には、その生徒との直接的な対話によって書きたい内容を引き出ししながら、書く活動への抵抗感を減らしたり少しずつでも英語でその内容を表現したりできるよう支援していきます。

言語活動を関連付けた段階的な指導

「書きたい出来事を選ぶ - 出来事の描写や説明を簡単な英語で書く - 口頭でのやり取りや発表などを通して、伝えるべき内容を深める - まとまりのある文章にしてみる」といった、それぞれの言語活動を関連付けた段階的な指導を行うことが有効です。

具体的には、例えば、「書き手は、テーマや話題に関する情報やキーワードを、順序を意識しながらメモする。そのメモを基に、簡単な語句や文を用いて書き表す。書き表したものを、ペアやグループになって聞いてもらったり読んでもらったりする。聞き手又は読み手は、その内容について質問したり、コメントを述べたりする。書き手は、やり取りした内容を参考に推敲する。」といった流れで指導します。

環境問題，世界情勢や平和に関する様々な状況，人権問題，科学技術の発達，自然との共存，社会貢献などに加えて，関連する他教科等での学習内容。

(I) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く 活動。

内容に関する感想，賛否やその理由など。

複数の領域（聞く・読む・書く）を統合して行う活動

第2の1(5)「書くこと」ウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする」に関連しています。

話題となっている内容を聞いたり読んだりして理解し、それを基に思考・判断したことについて、自分の考えや気持ちなどを主体的に伝え合う言語活動を設け、その発話内容を整理しながら書くといった領域間の統合を図ることが重要です。

「社会的な話題」を話題として実際の生活において必要な場面を想定した言語活動を通して、自分の意見や感想などを深め、「書くこと」に取り組む必要があります。

書いて伝えるための具体的な形式としては、教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチの形式や、新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書いたり、ディベートの立論形式に則って書いたりすることが考えられます。

各活動の展開例

テーマや話題から想起されるアイディアについてのマッピングなどを利用し、思考や情報の整理を行う。

その内容についてペアやグループで、相互に説明したり質問したりする。

個に戻り、それぞれの考えや気持ちを発展させたり、深化させたり、情報を追加したりして、マッピングに加筆する。

マッピングに書き出した項目のうち、内容的につながりのあるアイディアを組み合わせ、考えや情報の整理を再度行って書く。

(参考資料) 学習指導要領における言語活動一覧表

	外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
ア 聞くこと	<p>(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かたりする活動。</p> <p>(イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。</p>	<p>(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。</p>	<p>(ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。</p> <p>(イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。</p> <p>(イ) 友達や家族、学校生活などの日常的话题や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。</p>
イ 読むこと		<p>(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。</p> <p>(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。</p> <p>(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。</p> <p>(イ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。</p>	<p>(ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的话题に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。</p>
ウ 話すこと(やり取り)	<p>(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。</p> <p>(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。</p>	<p>(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。</p> <p>(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。</p> <p>(イ) 日常的话题について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。</p>
エ 話すこと(発表)	<p>(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。</p> <p>(イ) 自分の好き嫌い、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。</p> <p>(ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>	<p>(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関する事柄など、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。</p> <p>(イ) 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。</p>
オ 書くこと		<p>(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。</p> <p>(ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りについて、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。</p>	<p>(ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。</p> <p>(イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。</p> <p>(ウ) 日常的话题について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。</p> <p>(イ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。</p>

外国語科

Q15 言語の働きや言語の使用場面に関して留意することは何ですか。

A 15

- 1 小学校の高学年で使用する英語表現を把握した上で、同じ言語材料を繰り返し使用して確実な定着を図ったり、異なる言語材料を使用させて表現内容の広がりや深まりをもたせたりします。
- 2 使用される場面や状況に応じた特定の表現を使ったり、同じ表現でも場面や状況に応じてイントネーションが変化したりすることがあることを理解し、それを適切に活用できるようにします。
- 3 相手との信頼関係を築いたり、良好な関係でコミュニケーションを行ったりするために、相手意識をもちながら適切な表現を選択し、自分の気持ちを適切な表現で伝えることができるようにします。
- 4 事実や情報を正しく伝えるために、適切な表現を選択し、客観性や論理性を意識して事実や情報を有効に伝えることができるようにします。
- 5 考えや意図を伝える時は、場面を意識し、同じ働きであっても場面に応じて異なる表現を用いるのが適切であることや、相手意識をもったやり取りを通して、相手の感情や気持ちに配慮した表現があることなどの気付かせ、お互いが理解し合える気持ちのよいやり取りができるようにします。
- 6 相手の行動を促す際は、生徒にとって身近な場面を設定してコミュニケーションの状況を想起させ、同じ言語の働きであっても相手に応じて異なる表現を使ったり、同じ表現であっても場面や相手に応じてイントネーションやスピードなどの表現方法を工夫して伝えたりすることができるようにします。

1 「言語の使用場面」の例

(1) 生徒の身近な暮らしに関わる場面

場面	表現例	
家庭での生活	A: Haruna, can you help me? I want you to clean the bathroom now. B: Sorry, but I'm doing my homework.	A: What do you want to do this summer vacation, Yuta? B: I want to go camping! It'll be fun to cook dinner by ourselves and see many beautiful stars.
学校での学習	A: I saw a movie with my family. It was interesting. B: Oh, you saw a movie. Tell me more about it.	A: I have a question, Mr. Yoneda. How do you say mori in English? B: It's forest, but you can explain what a forest is in English by using words you already know. Try it!
学校での活動	A: What club activity do you want to join? B: I want to join the soccer club. I'm good at playing soccer.	A: What is the best memory in your junior high school days? B: The school trip is. I really enjoyed it.
地域の行事	A: What big events do you have in your city? B: We have an all-night dance festival. It is fun and exciting.	A: Look! So many people are over there. B: Wow! The fireworks festival will start soon.

〔参考〕小学校外国語科の「言語の使用場面」(1) 児童の身近な暮らしに関わる場面

場面	表現例	
家庭での生活	A : What time do you get up? B : I usually get up at six.	A : Do you like soccer? B : Yes , I do. I like playing soccer. What do you like? (How about you?) A : I like fishing. I enjoy it on Sundays.
学校での学習や活動	A : Do you have Japanese class on Wednesdays? B : Yes, I do. (No, I don't. I study math on Wednesdays.)	A : What is your best memory in your school life? B : My best memory is our school trip. We went to Okinawa. It was exciting.
地域の行事	A : Let's go to the summer festival. B : Yes, let's. (I'm sorry I can't.)	A : I like my town. We have a big park. But we don't have a gym. I want a gym.
子供の遊び	Rock, scissors, paper. One, two, three. A : What's this? B : Hint, please. A : Let's play dodgeball outside. B : Yes, let's.	A : Let's play cards. B : Sorry. I like tag. I like Bingo.

(2) 特有の表現がよく使われる場面

場面	表現例	
自己紹介	Great to see you. My name is Yasuko, from Japan. Hello. I'm Kentaro. Please call me Ken.	
買物	A: May I help you? B: Yes, please. I'm looking for a big brown bag.	A: We have other bigger ones. Shall I show you some of them? B: Thank you. Oh, this one seems better. How much is it?
食事	A: What would you like to drink? B: Orange juice, please. Thank you.	A: Would you like another cup of coffee? B: No, thank you.
道案内	A: Excuse me. Do you know where City Hall is? B: Yes. Go straight on this street and turn left at the first corner. It's on your left. It'll take about fifteen minutes.	A: Excuse me. Could you tell me how to get to the city library? B: I'm sorry. I'm new here.
旅行	A: Can I help you? B: I'd like to go to Ogaki. I must arrive there by noon. Which train should I take?	A: Excuse me. Could you take our photo? B: Sure.
電話での対応	A: Hello. This is Mina. May I speak to Lucy? B: O.K. Just a minute, please.	A: Hello. This is Atsushi. Can I talk to George? B: Sorry, Atsushi. He is out now. Shall I take a message?
手紙や電子メールでのやり取り	Dear Ms. Wilson, Thank you for your visiting to our school. We had a great time with you. We are looking forward to seeing you again. Sincerely, Kana Yamada	A: Hi. Are you free tomorrow? Shall we go shopping? B: Sounds nice! Thanks for your mail.

〔参考〕小学校外国語科の「言語の使用場面」(2)特有の表現がよく使われる場面

場面	表現例	
挨拶	A : Good morning, everyone. B : Good morning, (Ms. Komatsu).	A : Hello, (Takeshi). How are you? B : I'm fine, thank you. How are you?
自己紹介	A : Hello, my name is (). Nice to meet you. B : Hello, my name is (). Nice to meet you, too.	A : Hi, I'm (). I'm from Brazil. I like soccer. B : Oh, you can play soccer very well.
買物	A : How much is the bag? B : It's nine hundred yen.	A : What fruits do you want? B : I want apples and bananas.
食事	A : What would you like? B : I'd like pizza.	A : How much is it? B : It's two hundred yen.
道案内	A : Where is the treasure box? B : Go straight. Turn left. You can see a house. It's in the house. You can see it on your right.	A : Where is the park? B : Go straight for three blocks. Turn right. You can see it on your right.

2 「言語の働き」の表現例

言語の働き		表現例	
コミュニケーションを円滑にする	話し掛ける	Excuse me. : Do you have a minute? : What's wrong?	
	相づちを打つ	A: I'm going to meet my mom at 3 o'clock in front of City Hall. B: I see. Have a good time.	
		A: Look! I've got a new watch. : I think he will be absent from school tomorrow. B: That's nice. Where did you buy it? : Really? He said he would come.	
	聞き直す	A: Pardon me? B: I'm sorry. I said, "Help yourself, please." A: I didn't hear you. Could you say that again? B: O.K. The answer is "A".	
		A: What did you say? It's too noisy here. B: Nothing. Forget it.	
繰り返す	A: I went to Hiroshima last week. A : I studied for the math test yesterday. B: Oh, you went to Hiroshima. Me, too. B : You studied for the math test, too?		
	A: I passed the exam! B: You mean you passed the entrance exam to that school?		

気持ちを伝える	礼を言う	Thank you for calling me. A: It's time to say good-bye. We'll miss you. B: I had a great time here. I really appreciate it.	A: I'd like you to join the party. B: Sorry I can't. But thanks anyway.
	苦情を言う	It's too expensive.	I have a problem at my job.
	褒める	What a nice dress!	I like your shoes.
	謝る	Excuse me.	Please forgive me.
	歓迎する	I welcome you anytime.	I've been looking forward to your visit.
事実・情報を伝える	説明する	A: You are going home early today. B: Yes, because my dog is waiting. I'll take him for a walk. A: Please tell me how to use this machine. B: O.K, I'll show you the video. It demonstrates how this machine works.	A: Why do you think so? B: According to the survey, 65% are interested in this problem.
	報告する	A: Ms. Saito, the video recorder is ready. B: Great! I'll begin my speech then.	A: I'd like to tell you about the results of the survey. B: Well, I'm very interested in them. Go ahead.
	発表する	Let me tell you about our school. Our school began in.... I will show you some pictures from my hometown. My hometown is.... First of all, let me talk about the outline of the story.	
	描写する	My teacher is a tall young man. He's very nice and energetic. I have two large dogs. Both of them are more than 150 centimeters tall and they look like bears. Look at the man over there. He is shouting to the tall boy in a blue T-shirt next to the vending machine. What's happening?	
考えや意図を伝える	申し出る	A: What's the matter with you? B: I've been writing my report since this morning, but I can't finish it yet. A: Do you need some help? B: Thank you. A: Mom, I'm home. It is very cold outside. B: Oh, that's too bad. How about some hot tea? A: Sounds good.	A: Can I help you? B: Yes, please. I want to go to the station. A: O.K. It's very near here. Shall I go there with you? B: Thank you. I'm glad to hear that.
	約束する	A: You said that you would never be late, right? B: Yes. You have my word. A: Alright. I trust you.	A: Where are you going, Mike? B: I'll go to see the movie with Tom. I promise to be back by 5:00 p.m., Mom. A: O.K, good boy.
	意見を言う	A: Do you have any ideas to solve this problem? B: Yes. In my opinion, we should help each other. A: What should we do for it? B: I'm afraid I have no idea. It's too difficult for us. I suggest that we should ask our teacher.	A: Where is our new ALT from? B: She is from England, I suppose.
	賛成する	A: I want to see a movie with you this weekend. B: That's a good idea. A: The school festival was a big success. Is that right? B: I have no doubt. We had a great time.	A: I think that having breakfast is very important for our health. B: I agree with you.
	反対する	A: This project is very difficult for you. B: I don't think so. I can do it. A: I think I'll give up my dream. B: Why? You can do it! Please don't give up.	A: How about taking a taxi to the library? B: That's not a good idea, I guess. It is just behind the station.

考えや意図を伝える	承諾する	A: May I come in? B: Yes, please.	A: Mom, can I eat this cake? B: Sure, but you have to finish your homework first.	A: Could you please help me carry my baggage? B: Yes, sir. It's my pleasure.
	断る	A: Would you like to go shopping tomorrow? B: I'd like to, but I'm going to the library to study for the test with Mike. A: How about something hot to drink? B: No, thanks. I'm full.	A: Can you come to the party? B: Thank you for asking me. But I'm afraid I can't make it this time.	
	仮定する	A: If you have your own computer, please bring it. B: All right. A: If I had my own computer, I could get some information on the Internet. B: How about going to the library? You can use the Internet.	A: Well, I wish I were a bird. B: What? A bird? Why is that? A: If I were a bird, I would fly to you.	
相手の行動を促す	質問する	A: Do you have your passport? B: Yes. Here you are.	A: Can you hear me, Mike? B: What? Oh, I'm sorry, Ms. Green.	
	依頼する	A: It's dark outside. Can you turn on the light? B: Sure. A: I'm Suzuki. Nice to meet you. May I have your name, please? B: I'm Mary. Nice to meet you, too.	A: I want to go to the museum. Will you show me which bus to take? B: O.K, you should take that yellow bus.	
	招待する	A: I'm going to the chorus festival this weekend. Can you come with us? B: Yes, of course. I'm so excited. A: We're thinking of making a birthday cake for Kumi. Will you join us? B: Wonderful. That will make her happy.		
	命令する	A: Watch your step. B: Oh, thanks. It was close.	A: You can't take photos here. B: All right.	A: Be quiet in the library. B: I'm sorry.

〔参考〕小学校外国語科 「言語の働き」の表現例

言語の働き		表現例	
コミュニケーションを円滑にする	挨拶をする	Good morning.	Good afternoon.
	呼び掛ける	Hello, Ken.	Excuse me.
	相づちを打つ	A : I want to be a vet. B : Oh, I see.	A : He is a good baseball player. B : Right.
	聞き直す	Sorry?	A : I always wash the dishes. B : Always?
	繰り返す	A : I have a dog. B : Oh, a dog.	A : I went to Osaka. B : Osaka. I see.
気持ち伝える	礼を言う	Thank you very much.	Thanks.
	褒める	Great.	Good job.
	謝る	Sorry.	I'm sorry.
事実・情報を伝える	説明する	This is my favorite place.	She is a good tennis player.
	報告する	She can play volleyball well.	We went to Kyoto.
	発表する	This is my hero. He is my brother.	My best memory is our school trip. We went to Nara
考えや意図を伝える	申し出る	May I help you?	It's my turn.
	意見を言う	I want to watch wheelchair basketball on TV.	It is exciting.
	賛成する	Yes, let's.	That's a good idea.
	承諾する	A : Let's play baseball. B : O.K.	A : I want to play basketball. B : Me, too.
	断る	A : May I help you? B : No, thank you.	A : Let's play basketball. B : Sorry. I can't play basketball.
相手の行動を促す	質問する	A : What sport do you like? B : I like soccer.	A : Can you sing well? B : Yes, I can.
	依頼する	Come here, please.	I'd like spaghetti.
	命令する	Go straight.	Turn right at the third corner.

外国語科

Q16 指導計画を作成する時に留意することは何ですか。

A 16

- 1 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ります。
- 2 学年ごとの目標を適切に定め、3 学年間を通じて外国語科の目標の実現を図ります。
- 3 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行います。
- 4 授業を英語で行うことを基本とし、英語による言語活動を行うことを授業の中心に据えます。
- 5 題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、他の教科等で生徒が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりします。
- 6 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行います。
- 7 指導体制を構築するとともに、指導方法の工夫を行います。

指導計画作成上の留意点

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うため、単元終末段階の生徒に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した課題設定をします。その上で、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら授業改善を行います。

「聞くこと」では、聞く目的や場面、状況などを意識した活動とすることが大切であり、聞いたことに対して何らかの形で応じたり考えを表現したりするといったように、自然なコミュニケーションを意識した活動を考えます。

「話すこと」に関しては、豊かなやり取りを通して言葉の学習を促し、それを発表できるだけの力へと育てます。やり取りから発表へ、また時には発表からやり取りへと交互に繰り返す柔軟な指導計画の立案が求められます。やり取りの際には、最初から流暢かつ正確な言葉遣いで応答ができることを求めないようにします。

「読むこと」や「書くこと」については、未知語の意味や発音を指導したり、文構造や文法事項を説明したりすることに過度に時間を取られるのではなく、そこで伝えられる意味内容に留意し、生き生きとした言語活動を展開します。

「書くこと」の活動に際しては、何のために書くのかという目的や、誰に対して書くのかという読み手意識がもてるように、活動の提示方法、流れ、目標などを十分に考えて行います。

イ 学年ごとの目標を適切に定め、3 学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。

領域別の目標が明確に示されたことにより、その目標と関連付けられた学年ごとの「学習到達目標」を各学校において生徒の発達の段階と実情を踏まえて設定します。

各学校が学習到達目標を定めることにより期待される効果として、次のことが挙げられています。

- ・ 生徒にどのような英語力が身に付くか、英語を用いて何ができるようになるのか、あらかじめ明らかにすることができ、そうした情報を生徒や保護者と共有することで授業のねらいが明確になるとともに、生徒への適切な指導を行うことができる。
- ・ 「知識及び技能」の習得にとどまらず、それを活用してコミュニケーションが図れるよう、五つの領域にわたる総合的な資質・能力の育成を重視することが期待される。
- ・ 校内でも教師によって指導方法が大きく異なることがある中で、教師間で指導に当たっての共通理解を図り、均質的な指導を行うことができる。
- ・ 面接・スピーチ・エッセイ等のパフォーマンス評価などにより、「言語を用いて何ができるか」という観点から評価がなされることが期待され、更なる指導と評価の一体化とその改善につなげることができる。

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の活動を基本とします。外国語活動における「自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動」や小学校の外国語科における「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動」などを踏まえて行います。

中学校第1学年においては、特に、小学校における外国語活動や外国語科の内容、指導等の実態や生徒の興味・関心等を十分に踏まえ、中学校への円滑な接続を図ります（参考資料を参照）。

言語材料についての理解や練習は、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるように留意します。

小学校の学習内容については、言語活動において具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し活用し定着を図ります。

エ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。

- ・ 説明や発問、課題の提示などを生徒の分かる英語で話し掛ける。
- ・ 発話の速度や明瞭さを調整するとともに、使う語句や文などをより平易なもので言い直したり、繰り返したり具体的な例を提示したりする。

教師が英語で授業を行うねらいは、生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保することと、授業全体を英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」とすることにあります。生徒が日常生活において英語に触れる機会が非常に限られていることを踏まえ、英語による言語活動を行うことを授業の中心に据えるようにします。

指導言語を単に日本語から英語に変えるのではなく、日本語での文法説明や本文の和訳などに偏った授業の在り方を見直し、必要な意味内容をいかに英語で伝えることができるかを考えて授業を工夫改善していく必要があります。

オ 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

自分の考えや気持ちなど、実際に相手に伝えたい内容についてコミュニケーションすることにより、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うため、他教科等でこれまで学んできた、あるいは現在学んでいることを積極的に活用するなど、カリキュラム・マネジメントの視点から、教科等間で学びのつながりや広がりがある題材となるよう工夫します。

【他教科等との関連付けの例】

- (国語科) ・ 「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」や「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること」といったことを国語科で学習し、外国語科でのスピーチやグループでの話し合い、読んだことを基にした意見交換などの活動に生かす。
 - ・ 「提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動」や「互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動」、「詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」といった国語科での言語活動を想起させ、外国語科でのスピーチや意見交換などの活動に生かす。
- (理科) ・ 外国語科で太陽光発電に関わる題材を扱う際、理科の「エネルギーとエネルギー資源」で学んだことを背景知識として生かす。
- (音楽科) ・ 「我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性」について鑑賞を通して学んだことを生かす。

カ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

障害のある生徒などの指導に当たっては、個々の生徒によって、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定、人間関係形成の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手であることなど、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫します。

【配慮の例】

- ・ 英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多く、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう生徒の場合、語を書いたり発音したりすることをねらう活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにしたり、似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようにしたりする。

キ 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

生徒がネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などとのコミュニケーションを通して、標準的な英語音声に接し、正確な発音を習得したり、英語で情報や自分の考えを述べたりするとともに、相手の発話を聞いて理解するための機会が日常的に確保されるようにします。

「社会に開かれた教育課程」の理念の下、生徒の学習の質の向上を図るためには、学校、家庭、地域社会が連携・協働して生徒たちを育てていくことのために、各学校においては、今後一層、家庭や地域の人々と教育活動の方向性を共有化し、具体的な役割や責任を明確にしていくことが大切です。

(参考資料) 外国語活動及び小学校外国語科向け新教材の主な学習内容及び表現例

第3学年「Let's Try! 1」

単元	単元名	主な学習内容	表現例 (ゴシック表記は新出表現)
1	Hello! あいさつをして友達になろう	世界の挨拶, 自己紹介 (名前)	Hello. / Hi. / I'm (Hinata). / Goodbye. / See you.
2	How are you? ごきげんいかが?	ジェスチャー, 感情や状態の表現	How are you? / I'm (happy).
3	How many? 数えてあそぼう	20までの数	How many (apples)? / (Ten) (apples). / Yes. / That's right. / No. Sorry.
4	I like blue. 好きなものをつたえよう	好きなものの伝え合い	I like (blue). / Do you like (blue)? / Yes, I do. / No, I don't. / I don't like (blue).
5	What do you like? 何が好き?	何が好きかの伝え合い	What do you like? / I like (tennis). / What (sport) do you like? / I like (soccer).
6	ALPHABET アルファベットとなかよし	アルファベットの大文字	(The 'A' card), please. / Here you are. / Thank you. / You're welcome.
7	This is for you. カードを送ろう	いろいろな形を集めたカード作り	What do you want? / (A star), please. / Here you are. / This is for you. / Thank you. / You're welcome.
8	What's this? これってなあに?	クイズ大会	What's this? / Hint, please. / It's (fruit). / It's (green). / It's (a melon). / That's right.
9	Who are you? きみはだれ?	短い話 (絵本) の概要把握	Are you (a dog)? / Yes, I am. / No, I'm not. / Who are you? / I'm (a dog). / Who am I? / Hint, please.

4 学年「Let's Try! 2」

単元	単元名	主な学習内容	表現例 (ゴシック表記は新出表現)
1	Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	世界の様々な挨拶	Hello. / Good [morning / afternoon / night]. / I like (strawberries). / Goodbye. / See you.
2	Let's play cards. 好きな遊びをつたえよう	好きな遊びの尋ね合い	How's the weather? / It's [sunny / rainy / cloudy / snowy]. / Let's (play cards). Yes, let's. / Sorry. / Stand up. / Sit down. / Stop. / Walk. / Jump. / Run. / Turn around.
3	I like Mondays. 好きな曜日は何かな?	一週間の予定や曜日	What day is it? / It's (Monday). / Do you like (Mondays)? / Yes, I do. / No, I don't. / I like (Mondays).
4	What time is it? 今, 何時?	世界の時差と好きな時間	What time is it? / It's (8:30). / It's (homework time). / How about you?
5	Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	友達の好みに合う文房具セット	Do you have (a pen)? / Yes, I do. / No, I don't. / I [have / don't have] (a pen). / This is for you.
6	Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	文字クイズ	Look. / What's this? / Hint, please. / How many letters? / I have (six). / Do you have (a 'b')? / Yes, I do. / No, I don't. / That's right. / Sorry. / Try again.
7	What do you want? ほしいものは何かな	オリジナルピザの紹介 (食材, want)	What do you want? / I want (potatoes), please. / How many? / (Two), please. / Here you are. / Thank you.
8	This is my favorite place. お気に入りの場所をしょうかいしよう	校内の好きな場所への案内と紹介	Go straight. / Turn [right / left]. / Stop. / This is (the music room). / This is my favorite place. / Why? / I like (music).
9	This is my day. ~ "Good Morning" ~ ぼく・わたしの一日	短い話 (絵本) の概要把握	I wake up (at 6:00). / I have breakfast (at 7:00). / I go to school. / I go home.

第5学年「We Can! 1」

単元	単元名	主な学習内容	表現例（ゴシック表記は新出表現）
1	Hello, everyone. アルファベット・自己紹介	自己紹介と名前のスペリング 大文字の識別と文字の名称の読み	Hello, I'm (Saki). / Nice to meet you. / My name is (Kosei). / How do you spell your name? K-o-s-e-i. / I [like / don't like] (blue). / What (sport) do you like? / I like (soccer) very much. / I have (old balls). / I want (a new ball).
2	When is your birthday? 行事・誕生日	誕生日とバースデーカード作り 大文字の書写	When is your birthday? / My birthday is (August 19th). / What (sport) do you like? / Do you like (soccer)? / Yes, I do. / No, I don't. / I [like / don't like] (soccer). / Do you want (new soccer shoes)? / What do you want for your birthday? / I want (a dog). This is for you. / Thank you. / You're welcome. / Happy birthday.
3	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	時間割と世界の学校生活 小文字の識別と文字の名称の読み	Do you have (P.E.) on (Monday)? / Yes, I do. / No, I don't. / What do you have on (Monday)? / I study (math). / I want to be (a teacher). / I want to study (math).
4	What time do you get up? 一日の生活	日課・頻度の表現 小文字の書写	What time do you (get up)? / I (usually) (get up) at (7:00).
5	She can run fast. He can jump high. できること	身近な人（三人称）ができること 文字の音への気付き	Can you (sing well)? / Yes, I can. / No, I can't. / [I / You / He / She] [can / can't] (sing well).
6	I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域	行きたい国 ポスター等の文字を読み、語句の書き写し	Where do you want to go? / I want to go to (Italy). / Why? / I want to [see / go to / visit] (the Colosseum). / I want to eat (pizza). / I want to buy (olive oil). / It's [exciting / delicious / beautiful / great / fun].
7	Where is the treasure? 位置と場所	道案内（位置と場所） 語句の書き写し	Where is the treasure? / Go straight (for three blocks). / Turn [right / left] (at the third corner). / You can see it on your [right / left]. / It's [on / in / under / by] (the desk).
8	What would you like? 料理・値段	レストランでの丁寧な言い方 語句の書き写し	What would you like? / I'd like (spaghetti). / This is for (my brother). / How much? / It's (970 yen). / Here you are. / Thank you.
9	Who is your hero? あこがれの人	自分の尊敬する人 語句や表現の書き写し	Who is your hero? / This is my hero. / [He / She] is good at (playing tennis). / [He / She] is a good (tennis player). / [He / She] can (cook well). / [He / She] is [kind / cool / great / strong / gentle / active / brave / funny].

第6学年「We Can! 2」

単元	単元名	主な学習内容	表現例（ゴシック表記は新出表現）
1	This is ME! 自己紹介	自己紹介 英語らしい音への気付き	I'm from (Shizuoka). / I like (soccer). / I can (play soccer well). / I am good at (running). / My birthday is (August 19th). / My nickname is (Ken). / What [colors / subjects / fruits / sports / animals] do you like? / What is your favorite [color / subject / fruit / sport / animal]? / When is your birthday?
2	Welcome to Japan. 日本の文化	日本文化のよさの再発見 例を参考にした書き取り	Welcome to Japan. / In (summer), we have (fireworks festival). / What [food / games] do you have in Japan? / We have [soba / fukuwarai]. / It's (delicious). / You can enjoy [rakugo / hanami / tempura].
3	He is famous. She is great. 人物紹介	人物紹介 例を参考にした書き取り	I am (Ken). / I [like / play] [the violin / baseball]. / I [have / want] a new [recorder / a ball]. / I eat (spaghetti). / I study (math). / I can [swim / cook / skate / ski / sing / dance]. / I can (play baseball well). / Who is this? / [He/ She] is [famous / great].
4	I like my town. 自分たちの町・地域	自分の住んでいる地域 例を参考にした書き取り	We have / don't have (a park). / We can (see many flowers). / We can enjoy [fishing / shopping / swimming]. / I want a [library / park]. / (Sakura) is nice.
5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	夏休みの思い出，過去形 例を参考にした書き取り	I went to (my grandparents' house). / I enjoyed (fishing). / I saw (the blue sea). / I ate [ice cream]. / It was [fun / exciting / beautiful / delicious].
6	What do you want to watch? オリンピック・パラリンピック	東京オリンピック・パラリンピック 見たい競技についての読み書き	What do you want to watch? / I want to watch (wheelchair basketball). / I like basketball. / Are you good at (basketball)? / Yes, I am. / No, I'm not.
7	My Best Memory 小学校生活・思い出	小学校生活の思い出，過去形 例を参考にした書き取り	What's your best memory? / My best memory is (sports festival). / We enjoyed (running). / We [went to (Kyoto) / ate (Japanese food) / saw (old temples) / enjoyed (the trip)].
8	What do you want to be? 将来の夢・職業	将来の夢・職業 例を参考にした書き取り	What do you want to be? / I like (animals). / I want to be a (vet). / I can (play the piano well). / I am good at (playing the piano). / I want to be (a pianist). / That's (good). Good luck.
9	Junior High School Life 中学校生活・部活動	中学校生活 推測しながらの読み	I like (basketball). / I want to join (the basketball team). / What club do you want to join? / I want to enjoy (sports day). / What event do you want to enjoy? / I want to [study hard / read many books / make many friends].

外国語科

Q17 内容の取扱いについて配慮することは何ですか。

A 17

- 1 言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導するとともに、生徒の発達の段階に応じて、受容語彙と発信語彙とに分けて指導を行います。
- 2 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して言語材料を継続して指導します。また、発音と綴りとを関連付けて指導します。
- 3 筆記体の指導は、生徒の学習負担に配慮しながら指導します。
- 4 文法事項の指導に当たっては、関連のある文法事項はまとめて整理するとともに、コミュニケーションを支えるものとして、言語活動と効果的に関連付けて指導します。また、文法事項を実際に活用できるようにするとともに、日本語との違いに留意して指導します。
- 5 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにします。
- 6 活動の目的に応じて、学習形態について適宜工夫します。
- 7 視聴覚教材やその他の教育機器を有効活用します。
- 8 コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しや振り返りができるようにします。

指導計画作成上の配慮事項

ア 2の(1)に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

言語材料に関しては、全てを同じような学習到達目標で追求するべきものではなく、たとえば、語彙については、全てを発信能力まで高めていく必要は必ずしもないことに留意します。

「平易なものから難しいものへと段階的に指導すること」を判断する際には、教師の説明のしやすさや、生徒の概念的理解のしやすさだけではなく、実際に聞いたり読んだりする際の理解のしやすさや、話したり書いたりする際の使いやすさといった使用側面にも十分に配慮します。その際、「言語の使用場面」や「言語の働き」の点からも、その言語材料の活用頻度や活用のしやすさなどに配慮することが考えられます。

導入のタイミングと習得のタイミングは必ずしも一致しないことがあることを踏まえ、生徒の実情に応じた導入の仕方を考え、導入後も継続して関連の言語材料に触れたり使ったりできる機会を確保します。

イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。

小学校では音声と文字を関連付けた指導までを行います。具体的には、音声で十分に慣れ親しんだ表現について読んだり書いたりすることを念頭に、文字の名称を聞いてその文字を選んだり、文字を見てその名称を発音したりすることができるように指導します。

中学校においては、文字の表す音の指導を行います。英語の発音と綴りの対応関係については、ある程度単語の綴りとその発音になじんだところで、単純なものから徐々に指導していきます。

発音表記については、あくまでも音声指導の補助として利用し、発音表記そのものの詳細な指導に偏りすぎて生徒の過度の負担にならないよう配慮します。

ウ 文字指導に当たっては、生徒の学習負担にも配慮しながら筆記体を指導することもできることに留意すること。

小学校での指導事項である活字体の大文字及び小文字を中学校においても引き続き指導します。筆記体は、必要に応じて指導します。筆記体を指導することは、文字に対する興味付けともなり、有益であると考えられますが、生徒の学習負担を十分考えて指導に当たる必要があります。

既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を、例えば「まとめ」などとして比較対照しながら整理し、効果的な指導ができるようにするなどの工夫をすること。

エ 文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

- (ア) 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとめて整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。
- (イ) 文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気づきを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

【(ア)の指導例】

現在形や過去形の指導の後、時制として整理したり、to不定詞や関係代名詞などを修飾という側面から整理したり、英語と日本語の違いに焦点を当てて整理したりする。

【(イ)の指導例】

現在完了形の経験用法について教える際に、「何度も行ったことがある」(I have been to the stadium many times.) もしくは「一度も行ったことがない」(I have never been there.) といったように、単なる過去形や現在形ではなく、過去と現在の時間軸のつながりを意識した会話の中で、どのように現在形でも過去形でもない表現(現在完了形)が使われているのかに注目させて、その有用性に気付かせる。

関係代名詞を指導する際に、二つの文をつなげて一つにするといった形式操作ではなく、いかに先行詞である名詞に関係詞節が必要な情報を与えて、後ろから伝える内容を特定し、問題のないコミュニケーションを可能にしているかに注目させる。

文法をその伝える内容や目的、場面、状況などと密接に関連させた形で、効果的な導入、指導、練習方法を工夫します。

文法構造の概念的な理解だけを追求して、一方的な教師の説明に終始するのではなく、コミュニケーションの目的を達成する上で、いかに文法が使われているかに着目させて、生徒の気づきを促す指導を考えます。

文法事項を学んでは意味ある文脈の中で使い、使っては学ぶといった、理解や練習と実際の使用のサイクルを繰り返す中でコミュニケーションを図る資質・能力を育成していくようにする。

【(ウ)の例】

- ・ 修飾関係が日本語と同様の例
a sleeping baby a big dog
 - ・ 修飾関係が日本語とは異なっている例
a picture of my family the girl with short hair the boy swimming in the pool
a friend who lives in London the mountain I climbed last year
- 最初から話せる、書けるといった指導を急ぐのではなく、あくまでも豊富な例文に触れていく受容的な使用の中で、次第に発信的使用へと発展していくよう配慮します。

話したり書いたりすることを通して言葉の使い方に対しての問題意識を高めた上で、関連する英文に触れさせ、気づきを促す指導も有効です。

例文を提示する際は、十分な量を確保することに努めるだけでなく、生徒が自分自身との関連性を感じられるような意味内容のある例文を示していきます。

オ 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること。

未知語に出合うたびに辞書を使って調べるといった態度ではなく、聞いたり読んだりする中で、どの語を知ることが重要であり、どの語が文脈から推測可能であり、あるいは当面の目的のためには調べずにおくといったことを判断できる能力を育成します。

発信活動の際には、言い換え表現や婉曲表現、例示などを使って、限られた言語知識を駆使してコミュニケーションを可能にしていける力を育てた上で、辞書で必要な情報を調べる態度と能力を身に付けさせていきます。

カ 身近な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。

ペア・ワークやグループ・ワークは、質問をしたり質問に答えたりする力を育成する上で有用であり、そうした情報や考えなどのやり取りを豊富に行うことで、互いの考えや気持ちなどを理解し、根拠をもって外国語で伝え合う力を育成します。

ペア・ワークやグループ・ワークを行う際は、お互いに興味・関心をもって話し合い、相互理解を深められるような題材や活動の在り方を工夫します。その際、やり取りや即興性のある活動を取り入れることで、生徒がコミュニケーションの広がりや深まりを感じられるような活動の工夫を行います。

他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、その生徒が日頃から関わることのできる生徒をペアの相手やグループのメンバーに意図的に配置したり、担任やALT等とペアを組んだりするなどの工夫を行います。

キ 生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

視聴覚教材の活用を図る際は、活動を行う際の生きたモデルや、コミュニケーションの働きなどを示すことができるなどの特性を踏まえ、それらを使う目的を明確にし、生徒や学校及び地域の実態に応じたものを選択することが大切です。

短時間学習を行う場合に、指導を効率化し、生徒の興味・関心を高めるために、デジタル教材等の活用が考えられます。

「読むこと」や「書くこと」の指導場面で、デジタル教材などにより読み聞かせなどの効果を高めたり、文とその意味をイラストで添えて語順への意識を高めたりする指導が考えられます。

【視聴覚教材等の活用例】

- ・ 写真や映像等を見せることで、理解を促進し、現実感や臨場感を与え、学びの動機付けときっかけを与える。
- ・ インターネット等を活用することで、学校外へと広がる、現実との結び付きの濃い発展学習を実現する。
- ・ 教師やALT等の使う英語以外の様々な英語音声に触れる機会をもつ。
- ・ コンピュータや情報通信ネットワークを使うことによって、教材に関する資料や情報を入手したり、電子メールによって情報を英語で発信したりする。

安易に教育機器に頼り過ぎたり、技術的な手法に凝り過ぎたりすることには十分注意します。まず教師が英語を積極的に使ってコミュニケーションを行うことが必要であり、それを補助する上で、いかに様々な教育機器が効果的であるかを考えます。

ク 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

この配慮事項は、生徒が目的をもって学習に取り組み、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と新たに得られた知識を言語活動へつなげ、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくための学習過程を示しています。

各単元や各時間の指導を行う際には、単に繰り返し活動を行うのではなく、学習到達目標を踏まえ、生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して学習に臨むことができるよう、どのような言語活動を行うのかを明確に示します。このことにより、生徒自らが学習の見通しを立て、主体的に学習に取り組み、言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について、自ら学習のまとめを行ったり、振り返りを行ったりすることが促されるようにします。

外国語科

Q18 教材選定についてはどのようなことに配慮すればよいですか。

A 18

「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成するために、適切なものを選定する必要があります。その際に、言語の使用場面の例や言語の働きの例などに十分配慮したものを取り上げるようにします。教材の選定においては、五つの領域別の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するためのものであることに留意し、その際に、領域別の目標と内容との関係が、単元など内容や時間のまとまりごとに明確になっている必要があります。

教材選定の観点

- ア 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。
- イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点到に配慮すること。
- (ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
 - (イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。
 - (ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

公正な判断力や豊かな心情を身に付ける上で、様々な人々の考え方に接することができ、英語を使用している人々をはじめ世界の様々な人々の多様な考え方や行動の仕方について知ることができるような題材を選ぶようにします。

英語の学習を通して、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度やお互いの文化を尊重する態度を育成することができるような教材を選ぶようにします。

グローバル化が急速に進展する中で、日本の文化や日本人の考え方を積極的に外国の人々に知らせるという観点から、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うことに役立つもので、生徒の興味・関心を引き出し育てることのできるような教材を選択します。

外国語科

Q19 道德教育との関連はどのように図ればよいですか。

A 19

- 1 学習活動や学習態度への配慮，教師の態度や行動による感化とともに，外国語科と道德教育との関連を明確に意識しながら，適切な指導を行う必要があります。
- 2 外国語科の年間指導計画と，道德教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにします。

第 3 章 指導計画の作成と内容の取り扱いの 2

第 1 章総則の第 1 の 2 の(2)に示す道德教育の目標に基づき，道德科などとの関連を考慮しながら，第 3 章特別の教科道德の第 2 に示す内容について，外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

「学校における道德教育は，特別の教科である道德（以下「道德科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道德科はもとより，各教科，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，生徒の発達の段階を考慮して，適切な指導を行う」と規定されています。

第 2 章の第 1 節の第 1 目標の(3)

外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

- ・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深めることは，世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながります。
- ・ 聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮することは，外国語の学習を通して，他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し，多面的思考ができるような人材を育てることにつながります。
- ・ 外国語科で扱った内容や教材の中で適切なものを，道德科に活用するようにします。
- ・ 道德科で取り上げたことに関係のある内容や教材を外国語科で扱う場合には，道德科における指導の成果を生かすように工夫すること考えられます。
- ・ 外国語科の年間指導計画の作成などに際して，道德教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにします。

(参考資料) 第3章特別の教科道徳の第2に示す内容

A 主として自分自身に関すること

自主, 自律 自由と責任	1 自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任をもつこと。
節度 節制	2 望ましい生活習慣を身に付け, 心身の健康の増進を図り, 節度を守り節制に心掛け, 安全で調和のある生活をする。
個性の伸長	3 自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。
希望と勇気 努力と強い意志	4 より高い目標を設定し, その達成を目指し, 希望と勇気を持ち, 困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。
真理の探究	5 真実を大切にし, 真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

B 主として人との関わりに関すること

思いやり 感謝	6 思いやりの心をもって人と接するとともに, 家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し, 進んでそれに応え, 人間愛の精神を深めること。
礼儀	7 礼儀の意義を理解し, 時と場に応じた適切な言動をとること。
友情 信頼	8 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合うとともに, 異性についての理解を深め, 悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。
相互理解 寛容	9 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, それぞれの個性や立場を尊重し, いろいろなものの見方や考え方があることを理解し, 寛容の心をもって謙虚に他に学び, 自らを高めていくこと。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

遵法精神 公徳心	10 法やきまりの意義を理解し, それらを進んで守るとともに, そのよりよい在り方について考え, 自他の権利を大切に, 義務を果たして, 規律ある安定した社会の実現に努めること。
公正, 公平 社会正義	11 正義と公正さを重んじ, 誰に対しても公平に接し, 差別や偏見のない社会の実現に努めること。
社会参画 公共の精神	12 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め, 公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。
勤労	13 勤労の尊さや意義を理解し, 将来の生き方について考えを深め, 勤労を通じて社会に貢献すること。
家族愛 家庭生活の充実	14 父母, 祖父母を敬愛し, 家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。
よりよい学校生活 集団生活の充実	15 教師や学校の人々を敬愛し, 学級や学校の一員としての自覚をもち, 協力し合ってよりよい校風をつくるとともに, 様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。
郷土の伝統と文化の尊重 郷土を愛する態度	16 郷土の伝統と文化を大切に, 社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め, 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し, 進んで郷土の発展に努めること。
我が国の伝統と文化の尊重 国を愛する態度	17 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに, 日本人としての自覚をもって国を愛し, 国家及び社会の形成者として, その発展に努めること。
国際理解 国際親善	18 世界の中の日本人としての自覚をもち, 他国を尊重し, 国際的視野に立って, 世界の平和と人類の発展に寄与すること。

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

生命の尊さ	19 生命の尊さについて, その連続性や有限性なども含めて理解し, かけがえない生命を尊重すること。
自然愛護	20 自然の崇高さを知り, 自然環境を大切にすることの意義を理解し, 進んで自然の愛護に努めること。
感動 畏敬の念	21 美しいものや気高いものに感動する心を持ち, 人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。
よりよく生きる喜び	22 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し, 人間として生きることの喜びを見いだすこと。

外国語科

Q20 移行期間にはどのような指導を行えばよいですか。

A 20

- 1 平成30年度から平成32年度の指導に当たっては、その全部または一部について新学習指導要領の規定によることができます。
- 2 移行措置の基本方針並びに新学習指導要領の趣旨を十分踏まえるようにします。
- 3 小学校において平成30年度から取り扱われる内容を踏まえ、平成33年度の全面実施に向けて計画的に指導を行うようにします。特に、増加する語彙及び新たに加わった文法事項(Q 7 (p.19) 参照) への対応を考慮して指導を行っておくことが大切です。

小学校における移行措置の概要

- 1 平成30、31年度中の第5、6学年
 - (1) 新たに年間15単位時間を加え、50単位時間を確保し、外国語活動の内容に加えて、外国語科の内容を扱います。
 - (2) 外国語科の内容については、中学校との接続の観点から最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱います。
 - (3) 教材は、Hi, friends! や、新学習指導要領に対応した教材から、必要な内容が配布されます。
- 2 平成30、31年度中の第3、4学年
 - (1) 新たに年間15単位時間を確保し、外国語活動を実施します。
 - (2) 高学年との接続の観点から最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱います。
 - (3) 教材は、新学習指導要領に対応した教材から、必要な内容が配布されます。児童の発達の段階を考慮して表現を選定するとともに、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定し、児童が積極的にコミュニケーションを図ることができるように指導します。
- 3 小学校の授業時数及び総授業時数は、現行の時数を標準とし、「外国語活動の授業時数の授業の実施のために特に必要がある場合には、年間総授業時数及び総合的な学習の時間の授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができること」とされています。
- 4 学習評価は、現行学習指導要領の3観点で行います。
 - (1) Hi, friends! 1, 2 (現在配布されている版と同じもの)
 - (2) Hi, friends! Story Books (第3、4学年用) 及び Hi, friends! plus (第5、6学年用)
平成29年3月に、「次期学習指導要領に向けた指導力向上のための文部科学省作成補助教材等について」(平成28年11月)とDVD(2枚)を配布済み
 - (3) 文部科学省作成の新教材(第3～第6学年用、全210時間分)
児童冊子及び指導書、年間指導計画例、活動例、学習指導案例、デジタル教材
 - (4) 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」

5 移行期間中に必ず扱う事項

(1) 第3, 4学年 小学校学習指導要領 第4章第2の2

必ず取り扱うもの	学習指導要領における対応箇所
(1)イ(ア)	(1) 英語の特徴等に関する事項 イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。 (ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
(3)	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 言語活動に関する事項（以下省略）

(2) 第5, 6学年 小学校学習指導要領 第2章第10節の2

必ず取り扱うもの	学習指導要領における対応箇所
(1)ア	(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 ア 音声 次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。 (ア) 現代の標準的な発音 (イ) 語と語の連結による音の変化 (ウ) 語や句、文における基本的な強勢 (エ) 文における基本的なイントネーション (オ) 文における基本的な区切り
イ(ア)	イ 文字及び符号 (ア) 活字体の大文字・小文字
エ(ア) ^e 及びf, 同エ(イ)	エ 文及び文構造 (ア) 文 e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの (イ) 文構造 a [主語＋動詞] b [主語＋動詞＋補語]のうち、主語＋be動詞＋名詞／代名詞／形容詞 c [主語＋動詞＋目的語]のうち、主語＋動詞＋名詞／代名詞
(3) イ及び同オ	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 言語活動に関する事項 イ 読むこと (ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。 (イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。 (ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。 (エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。 オ 書くこと (ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。 (イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。 (ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。 (エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。